

昭和二十四年六月

太閤設準備委員會記錄簿

同之通

明治七年十一月廿日

筑摩縣權令山盛經殿

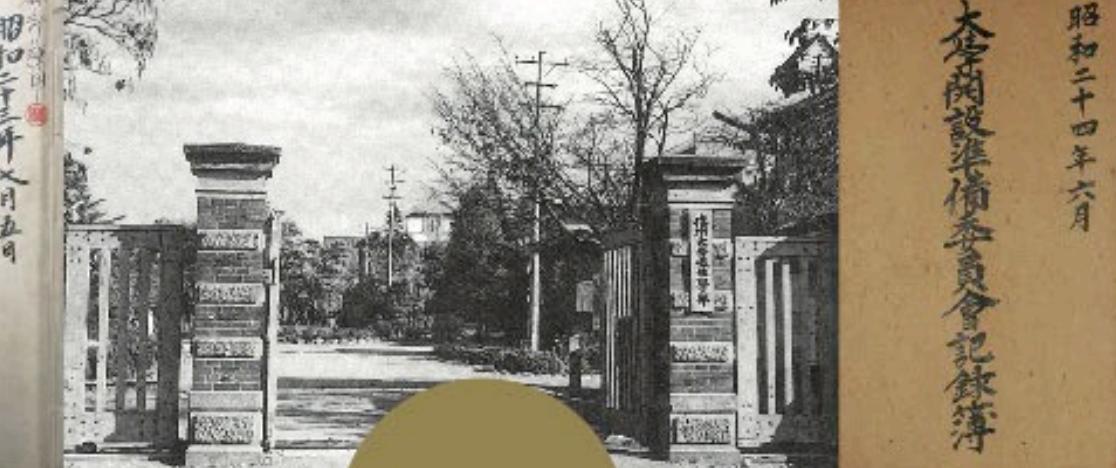
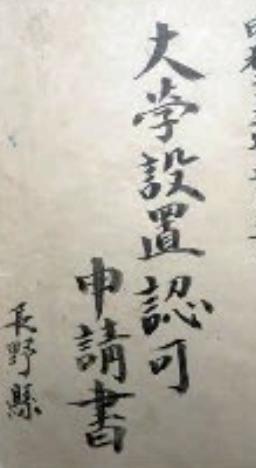
Web版

信州大學概覽

昭和二十五年十月

信州大学大学史資料センター企画展

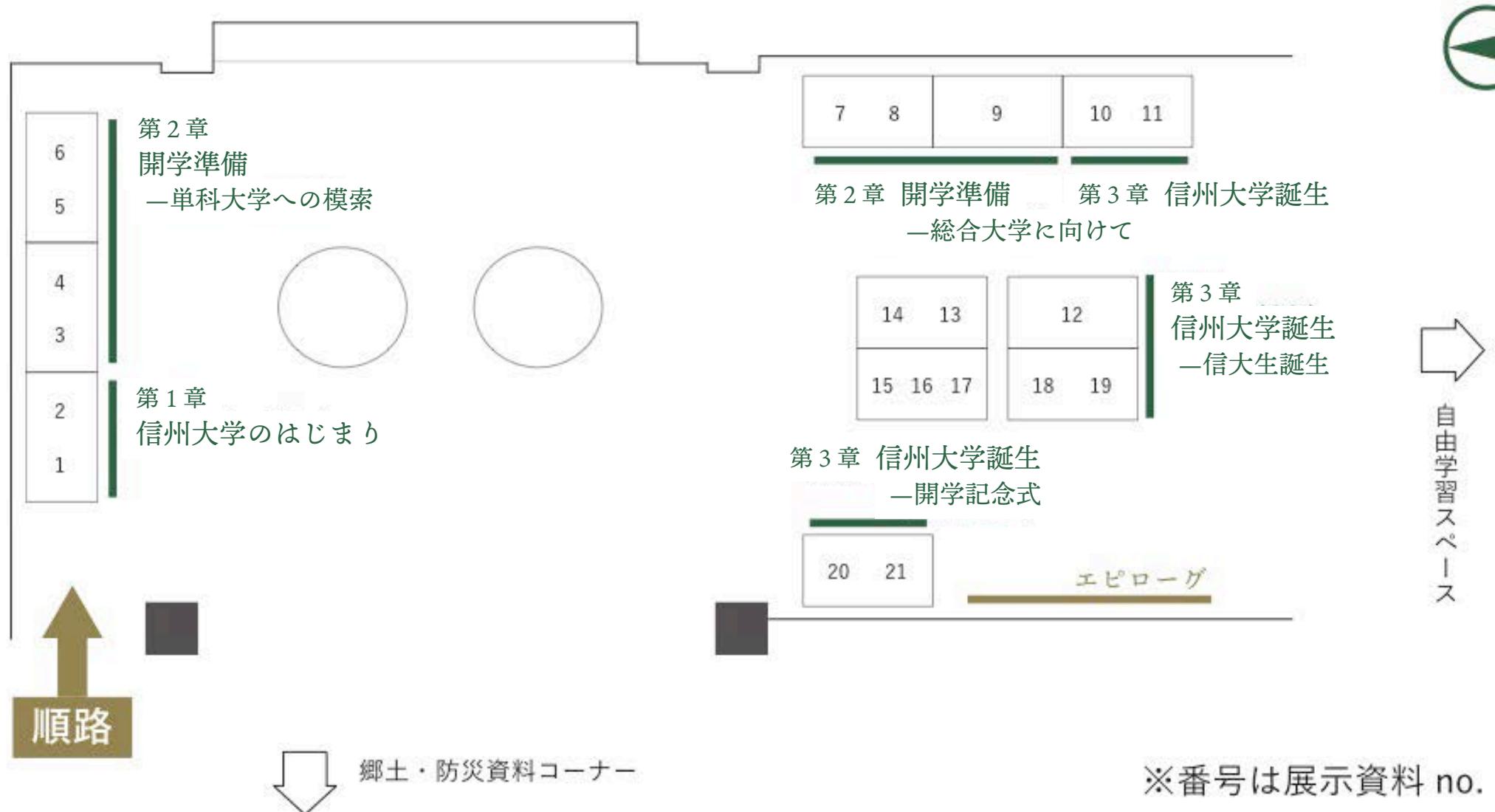
# 信州大学誕生





- 第1章 信州大学のはじまり ----- p. 4
- 第2章 開学準備 ----- p. 11
  - 単科大学への模索
  - 総合大学に向けて
- 第3章 信州大学誕生 ----- p. 30
  - 信大生誕生
  - 開学記念式
- エピローグ ----- p. 53

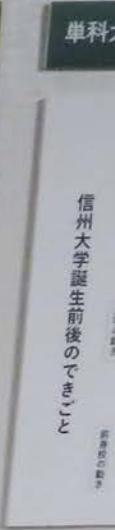
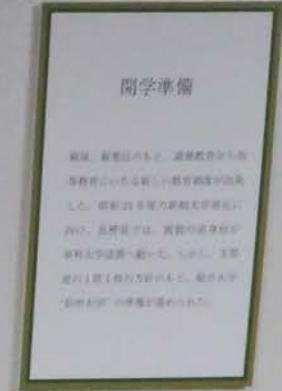
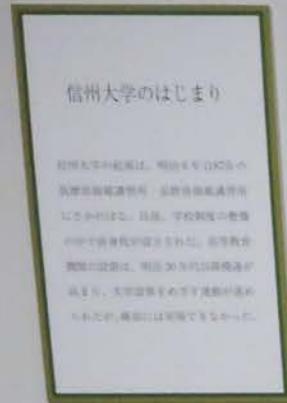
# 展示スペース見取り図 (中央図書館 1F 展示コーナー)



# 第1章 信州大学のはじまり

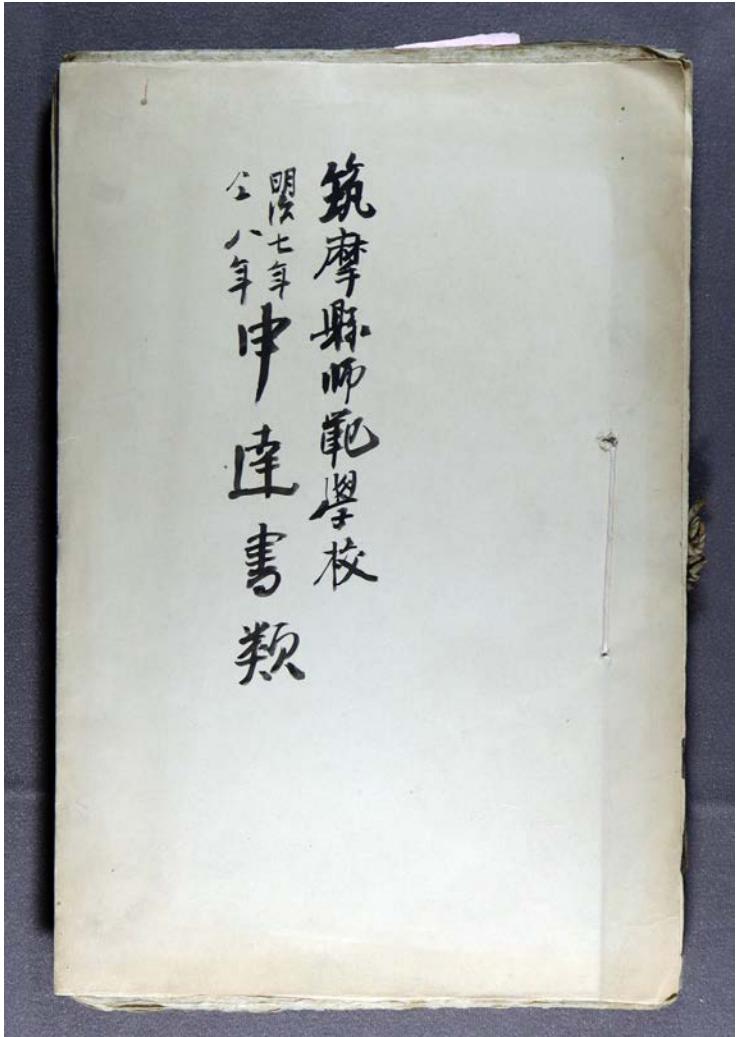
---

信州大学の起源は、1873(明治6)年の筑摩県師範講習所・長野県師範講習所にさかのぼる。以後、学校制度の整備の中で前身校が設立された。高等教育機関の設置は、明治30年代以降機運が高まり、大学設置をめざす運動が進められたが、戦前には実現できなかった。



展示資料 No.1

# 筑摩県師範学校 明治7年・8年申達書類



1874～1875(明治7～8)年  
教育学部蔵

1873(明治6)年5月設立の筑摩県師範講習所は翌年10月、同師範学校と改称した。本資料は、学生に対する免許状の交付に関する記録である。本学所蔵資料のなかで、最も古い資料である。

展示資料 No. 2

# 村松民次郎「本県教育の精神と信州大学」



出典:『信濃教育』349号

1915(大正4)年  
中央図書館蔵

1915(大正4)年11月発行の雑誌  
『信濃教育』に掲載された論文。長  
野県内に「信州大学」を設立するよ  
う主張している。同じ号には「信濃大  
学」という名称も見え、大学誘致・設  
立運動とともに旧国名を冠した大学  
名が生まれていたことがわかる。



# 高等教育機関設置への歩み

明治三十二年四月二日



六月

於信濃教育会  
第14回総会講演会

「諸君は進んで北信八州の地方に一つの大学を起こそう  
と云う考えを持たれてもよからうと吾輩は思うのである。  
高校の誘致とともに大学も考えよ」  
(『信濃公論』155)

辻新次  
龍野周一郎  
小山久之助  
小川平吉  
降旗元太郎  
山田荘左衛門  
他12名



長野県への高等学校  
誘致運動  
「意見書」提出

1908

明治四十一年十一月



保科百助  
(五無斎)

「仮に五無斎をして長野県知事たらしめば、(中略)桔梗が原高等学校、やがては信州大学設立など洒落るものに御座候」  
(『信濃公論』第4号)

1915

大正四年十一月



村松民治郎  
(編輯主任)



伊藤長七

伊藤  
「信濃大学創設の國論を樹立すべし」  
村松  
「本県教育の精神と信州大学」



1916

大正五年五月



平林廣人



「信州大学の一歩として夏季大学の開設を促す」

※1

1919

大正八年四月

松本高等学校設立

※1

大正十二年六月

師範大学設立運動



※1

大正十四年六月

信州帝国大学設立運動

昭和三年十月

信州大学設置調査委員会の設置

昭和十五年四月

信州大学設立促進に関する委員会

1928

1925

1923

1919

戦時体制により大学設立運動の中止へ

できごと



# 信州大学

## 前身校から現在まで



松本高等学校  
(大8.4)



松本医学専門学校  
(昭19.3) 松本医科大学  
(昭23.2)



(昭24.6.1)



文理学部  
(昭24.6)



人文学部  
(昭41.4)



人文学部  
(昭53.6)



経済学部  
(昭53.6)



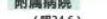
経法学部  
(平28.4)



理学部  
(昭41.4)



医学部  
(昭24.6)



医学科  
(昭49.6)



附属病院  
(昭24.6)



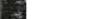
教育学部  
(昭24.6)



教育システム  
研究開発センター  
(平7.4)



高等教育  
システムセンター  
(平15.4)



共通教育センター  
(平7.4)



全学教育機構  
(平18.4)



工学部  
(昭24.6)



農学部  
(昭24.6)



繊維学部  
(昭24.6)

筑摩県  
師範講習所  
(昭6.5) 筑摩県  
師範学校  
(昭7.10)

長野県師範講習所  
(昭6.8) 長野県師範学校  
(昭8.12)

長野県尋常  
師範学校  
(昭19.9) 長野県師範学校  
(昭31.4)

松本女子師範学校  
(昭35.4)

長野県実業補習学校  
教員養成所  
(昭7.4)

長野県立青年学校  
教員養成所  
(昭10.4)

長野師範学校  
男子部 (昭18.4)  
女子部 (昭18.4)



長野高等工業学校  
(昭18.3) 長野工業専門学校  
(昭19.4)



上田産業専門学校  
(昭43.3)



上田織維専門学校  
(昭19.4)



長野県立農林専門学校  
(昭20.2)

農学部  
(昭24.6)

繊維学部  
(昭24.6)

# 信州大学の前身校

上田纖維専門学校



長野県立農林専門学校



長野工業専門学校



松本高等学校



長野師範学校



松本医科大学・松本医学専門学校



## 第2章 開学準備

---

戦後、新憲法のもと、義務教育から高等教育にいたる新しい教育制度が出発した。新制大学は、1949(昭和24)年に発足する。長野県では、前身校から単科大学をめざす動きもあったが、明治以来の「長野県に大学を」との熱意の到達点として、総合大学“信州大学”が誕生した。

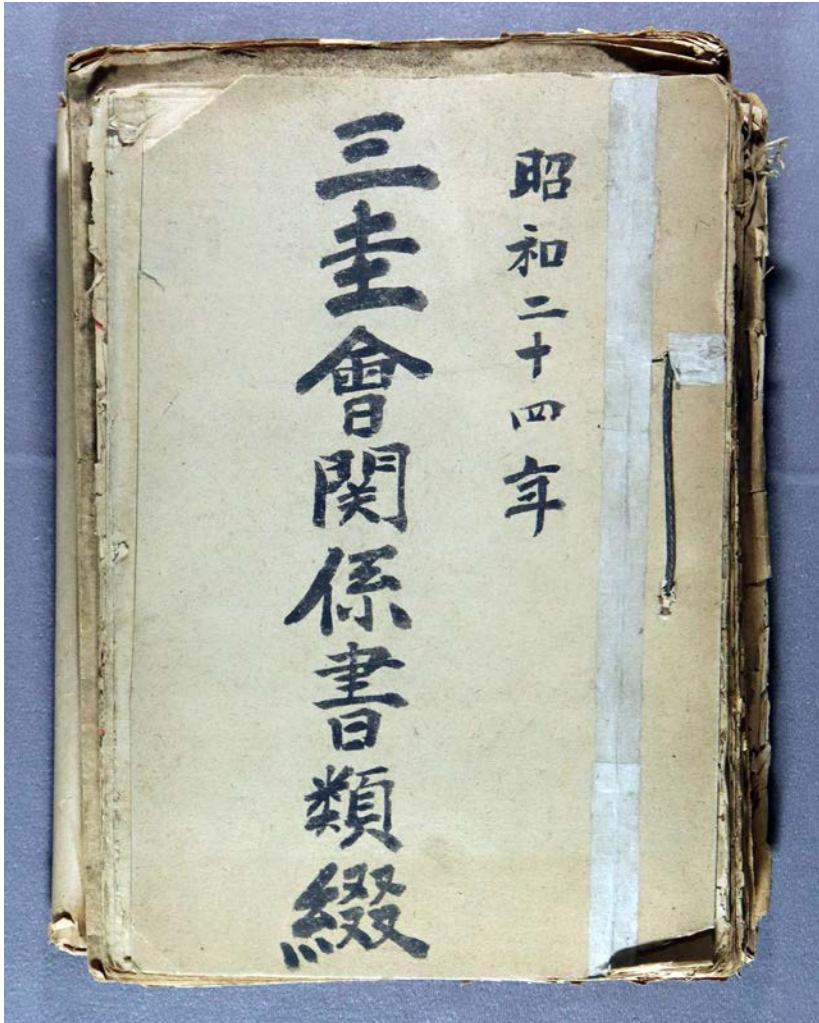
第2章 **開学準備**

---

**単科大学への模索**



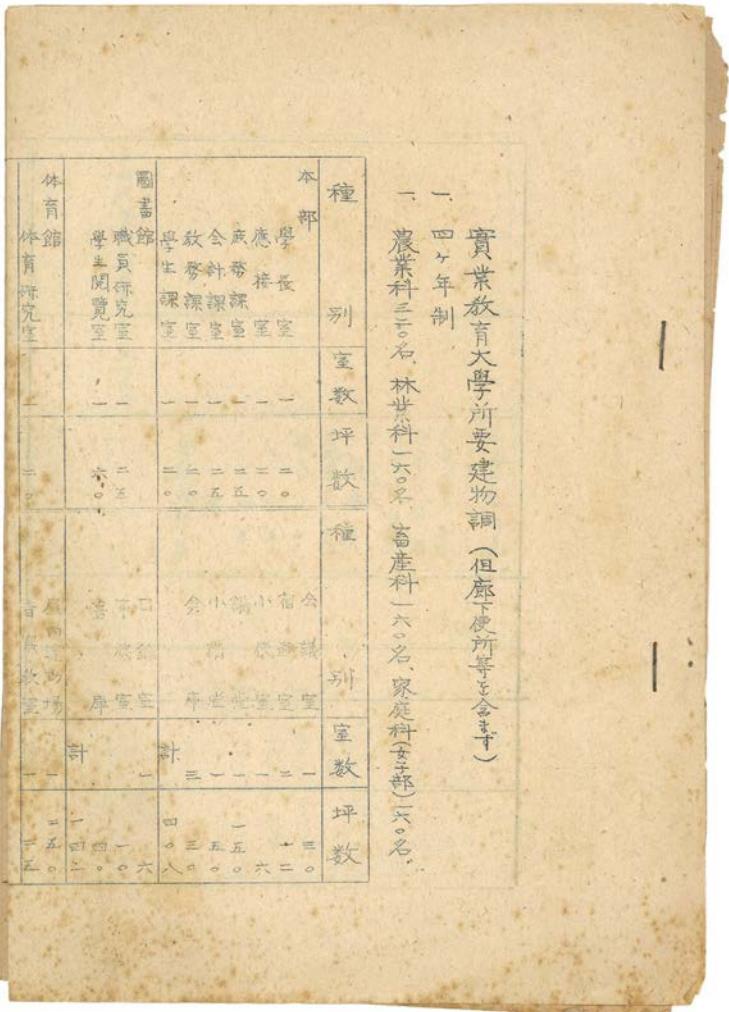
# 三圭会関係書類綴



1949 (昭和24) 年  
工学部 藏

全国の工業専門学校が加盟する「三  
圭会」で交わされた、工業大学昇格  
に関する動向が綴られている。長野  
工業専門学校は、単独で大学に昇格  
する運動を進めなかった。

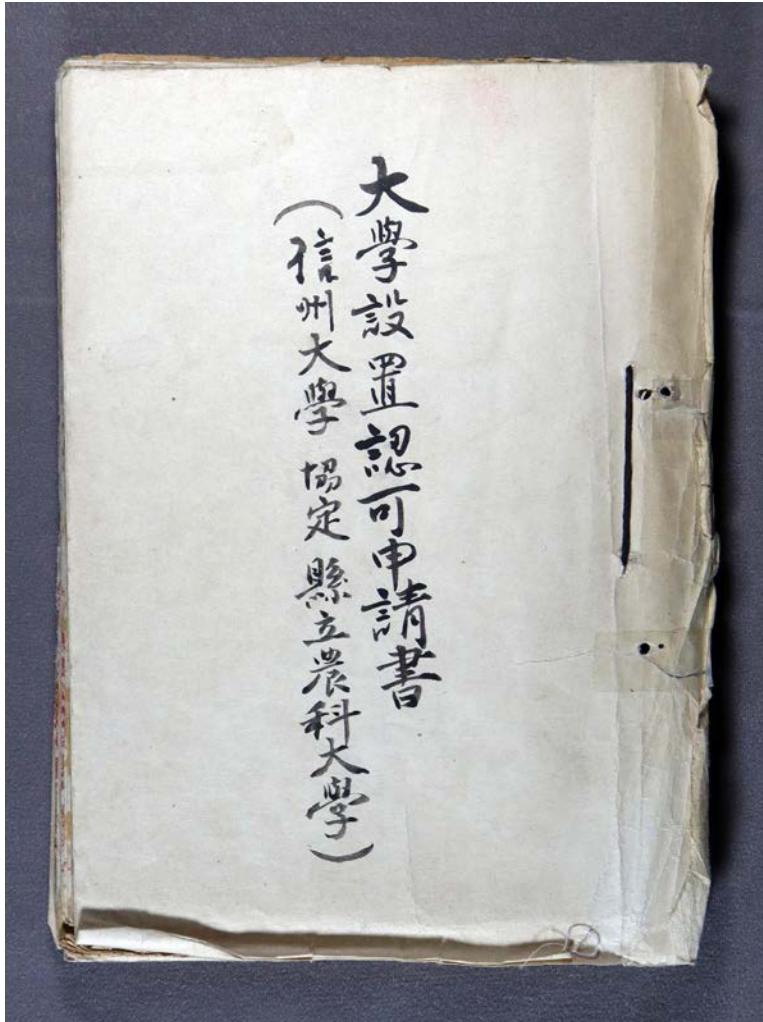
# 実業教育大学所要建物調



1947~1948 (昭和22~23) 年頃  
教育学部 藏

長野青年師範学校の「実業教育大学」昇格に関わって作成された書類。必要な本部・教室・図書館・体育館などの施設が列挙されている。昇格運動は、1946（昭和21）年12月から翌年4月にかけて展開した。

# 大学設置認可申請書(県立農科大学)



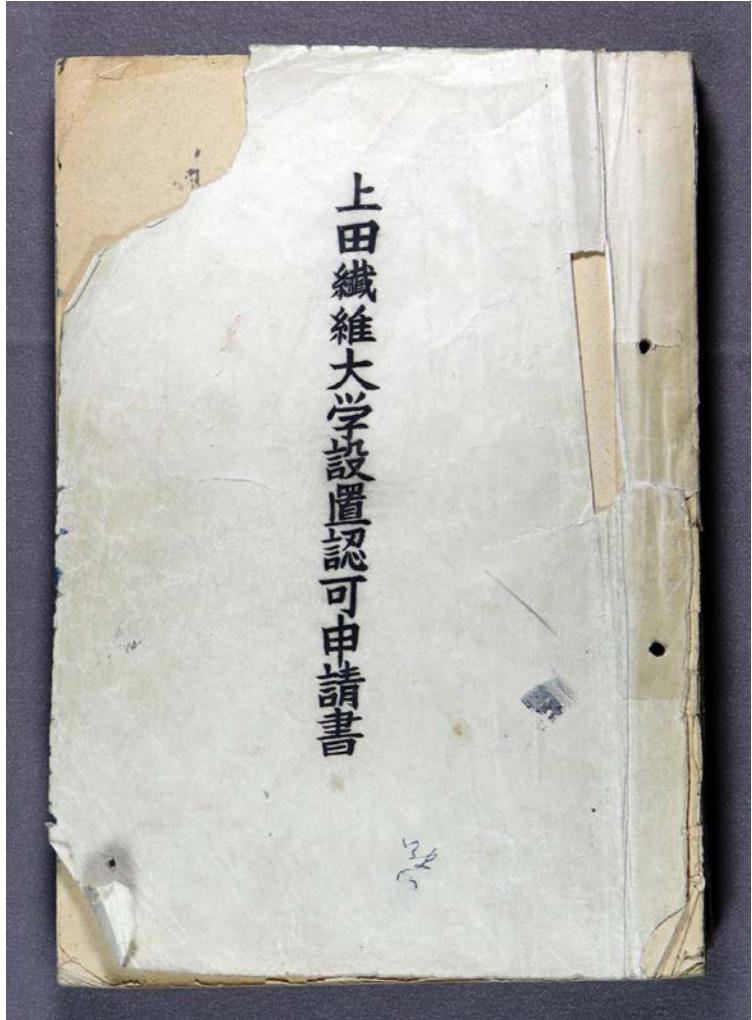
1948 (昭和23) 年 5月

大学史資料センター 藏

長野県農林専門学校の「県立農科大学」昇格を目指して、長野県知事が文部省に提出した申請書。教養課程を信州大学で履修することを前提としている。

展示資料 No. 6

# 上田纖維大学設置認可申請書



1948 (昭和23) 年  
大学史資料センター 藏

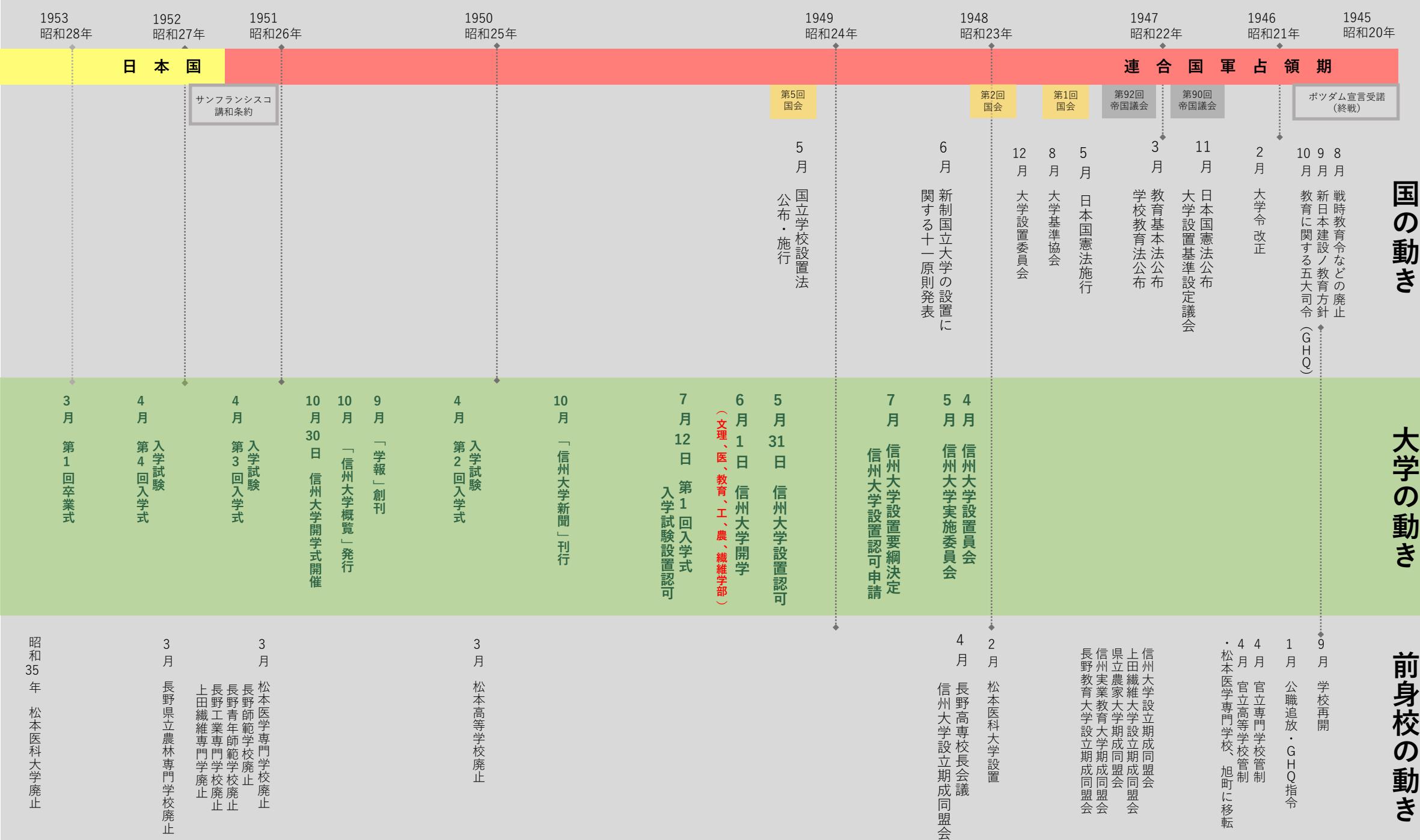
上田纖維専門学校が「上田纖維大学」昇格を目指して、文部省に提出した申請書。最終的には、教養課程を纖維学部単独で持ちながら、信州大学へ合流した。

# 信州大学誕生前夜のできごと

## 国の動き

## 大学の動き

## 前身校の動き



# 新制国立大学へのあゆみ

## 1947 昭和22 教育基本法

戦後の新秩序の教育  
高等教育に求められるもの

個人の尊重、学問の自由、  
教育の機会均等、男女共学、教養重視…

## 学校教育法

新学校制度の開始  
(4年または5年制新制大学を昭和24年から設置)

新制(国立)  
大学の  
枠組の議論

田中文部大臣の大学区構想  
(旧制大学の枠組みを残す)  
→の工〇が拒否

対立  
CITの大学地方移譲構想  
(高等教育の地方分権化)  
→日本国内での抵抗

大学の枠組みの流動化 — 単科、総合、連合、協定など

全国の新制(国立)大学誘致・昇格運動の高まり  
→長野県内での大学設立の動きが活発化  
(実業教育大学、農科大学、繊維大学、信州総合大学…)

## 新制国立大学に関する十一原則

次ページに内容を  
記載しています

1948  
昭和  
23・6月

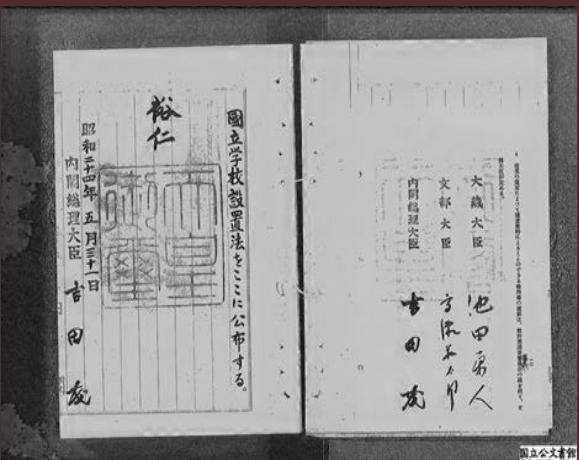
1 府県1 大学設置の方針  
→既設大学を中核として、高等学校、師範学校、専門学校  
を統合する形で調整される(長野県高専校長会議等)

一部を除き、各地の単科  
大学設置運動が終息へ

## 新制国立大学設置法

1949  
昭和24  
5月31日  
公布・施行

69校が誕生



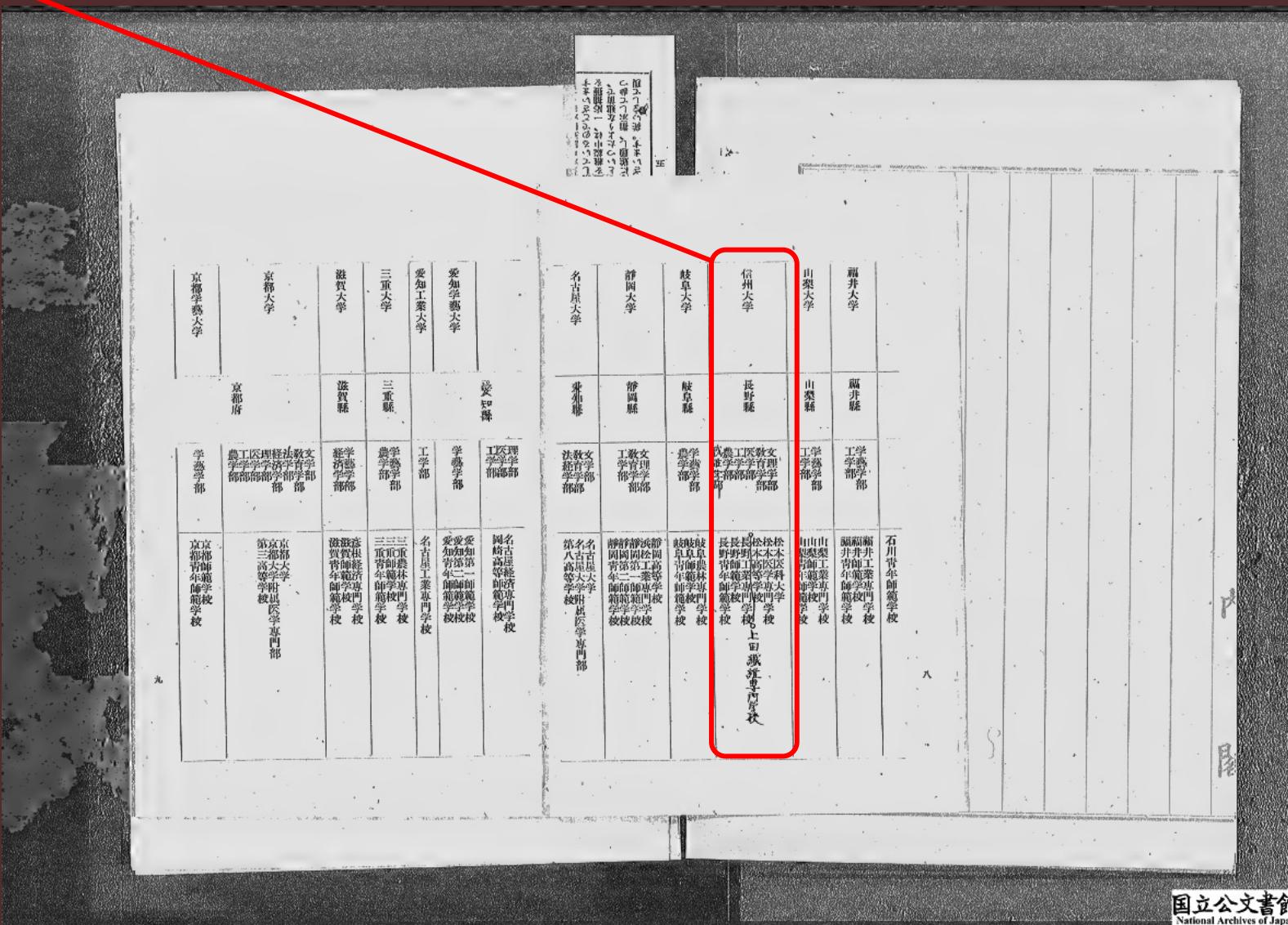
# 新制国立大学の設置に関する十一原則

(一九四八(昭和二十三)年六月)

- (一) 国立大学は、特別の地域（北海道、東京、愛知、大阪、京都、福岡）を除き、同一地域にある官立学校はこれを合併して一大学とし、一府県一大学の実現を図る。
- (二) 国立大学における学部または分校は、他の府県にまたがらないものとする。
- (三) 各都道府県には必ず教養および教職に関する学部もしくは部を置く。
- (四) 国立大学の組織・施設等は、さしあたり現在の学校の組織・施設を基本として編成し、逐年充実を図る。
- (五) 女子教育振興のために、特に国立女子大学を東西二か所に設置する。
- (六) 国立大学は、別科のほかに当分教員養成に関して二年または三年の修業をもつて義務教育の教員が養成される課程を置くことができる。
- (七) 都道府県および市において、公立の学校を国立大学の一部として合併したい希望がある場合には、所要の経費等について、地方当局と協議して定める。
- (八) 大学の名称は、原則として、都道府県名を用いるが、その大学および地方の希望によつては、他の名称を用いることができる。
- (九) 国立大学の教員は、これを編成する学校が推薦した者の中から大学設置委員会の審査を経て選定する。
- (十) 国立大学は、原則として、第一学年から発足する。
- (十一) 国立大学への転換の具体的計画については、文部省はできるだけ地方および学校の意見を尊重してこれを定める。意見が一致しないか、または転換の条件が整わない場合には、学校教育法第九十八条の規定により、当分の間存続することができる。

# 国立学校設置法の附表

新制国立大学の一覧の中に、信州大学がみえる。所在の県、設置予定の学部、母体となつた前身校が記される。纖維学部の母体となつた上田纖維専門学校は、5月12日の大学設置審議会で、単科大学昇格が認められなかつたため、信州大学纖維学部として合流した。



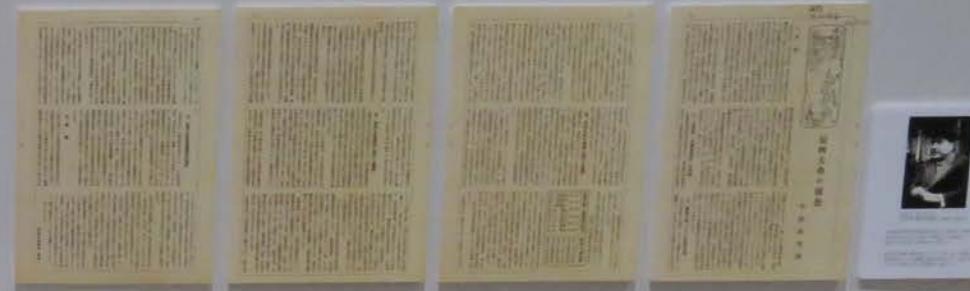
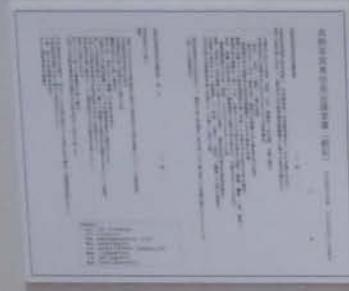
文理学部	松本医科大学
教育学部	松本医学専門学校
医学部	松本高等学校
工学部	長野工業専門学校
農学部	長野師範学校
長野青年師範学校	長野青年師範学校

第2章 開学準備

---

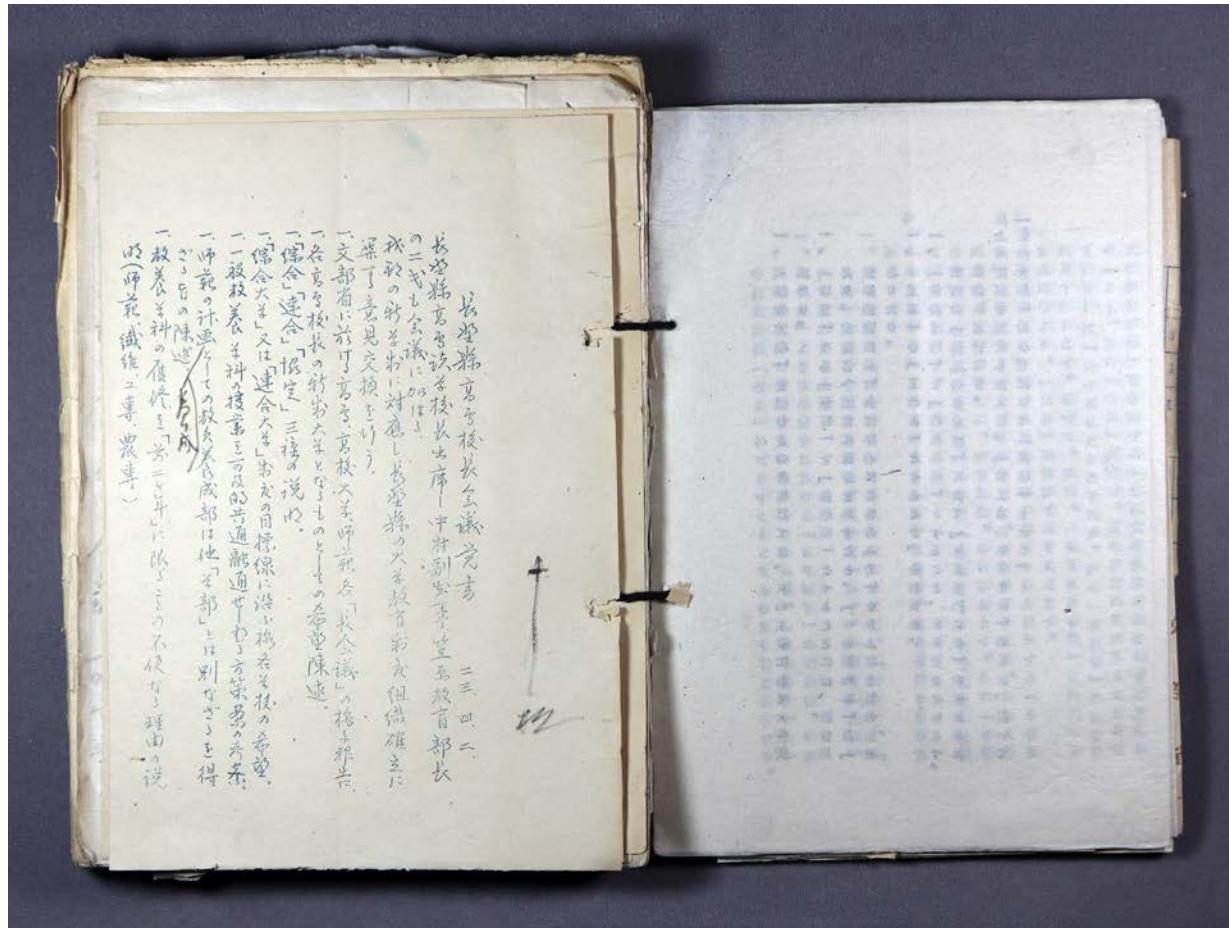
総合大学に向けて

総合大学への模索



展示資料 No. 7

# 長野県高専校長会議覚書



1947 (昭和22) 年 4月

大学史資料センター 藏

前身校の大学・高等学校・専門学校の校長で構成される会議の要旨がまとめられている。大学設置に向け、1948 (昭和23) 年4月から8月にかけて約10回開催された。4月の会議では、推進組織や、総合大学をめざすという基本方針が決められた。

※次の頁に翻刻を記載しています

# 長野県高専校長会議覚書（翻刻）

松本医科大学長 竹内松次郎による要旨

十

松

## 長野県高専校長会議覚書

二三、四、二

長野県高専諸学校長出席し、中村副知事、笠原教育部長の二氏も会議に加はる。我邦の新学制に対応し、長野県の大学教育制度組織確立に関する意見交換を行う。

一、文部省に於ける高専、高校、大学、師範各「長会議」の様子報告。

一、各高校校長の新制大学となるものとしての希望陳述。

一、「総合」「連合」「協定」三種の説明。

一、「総合大学」又は「連合大学」制度の目標線に沿ふ様各学校の希望。

一、一般教養学科の授業を可及的共通融通せしむる方策案の考察。

一、師範の計画としての教員養成部は他「学部」とは別なざるを得ざる旨の陳述。

一、教養学科の履修を「前二ヶ年」に限ることの不便なる理由の説明（師範、纖維、工専、農専）。

一、女専、青師の校舎を用いて一般教養科の授業の或る部分は、可能なる可しとの申出。

一、一般教養授業の大半を「松高」にて行はんとすることの案。

一、農専（現県立）を学部列に加うることの希望。（農専校長代理及笠原教育部長）

一、文部省へ提出すべき「最後案」の「形成」に就て、「高専」と「師範」との間の相違点。

一、学芸学部と実業教育学部とを別々の「学部」と為すの案。

諸員昼食及び夕食を共にし、懇談午後七時過ぎに及び明三日午前九時より会議を続行することとして、七時三十分頃散会す。

## 長野県高専校長会議覚書 第二日

二三、四、三

### 列席員昨日の如し 議事

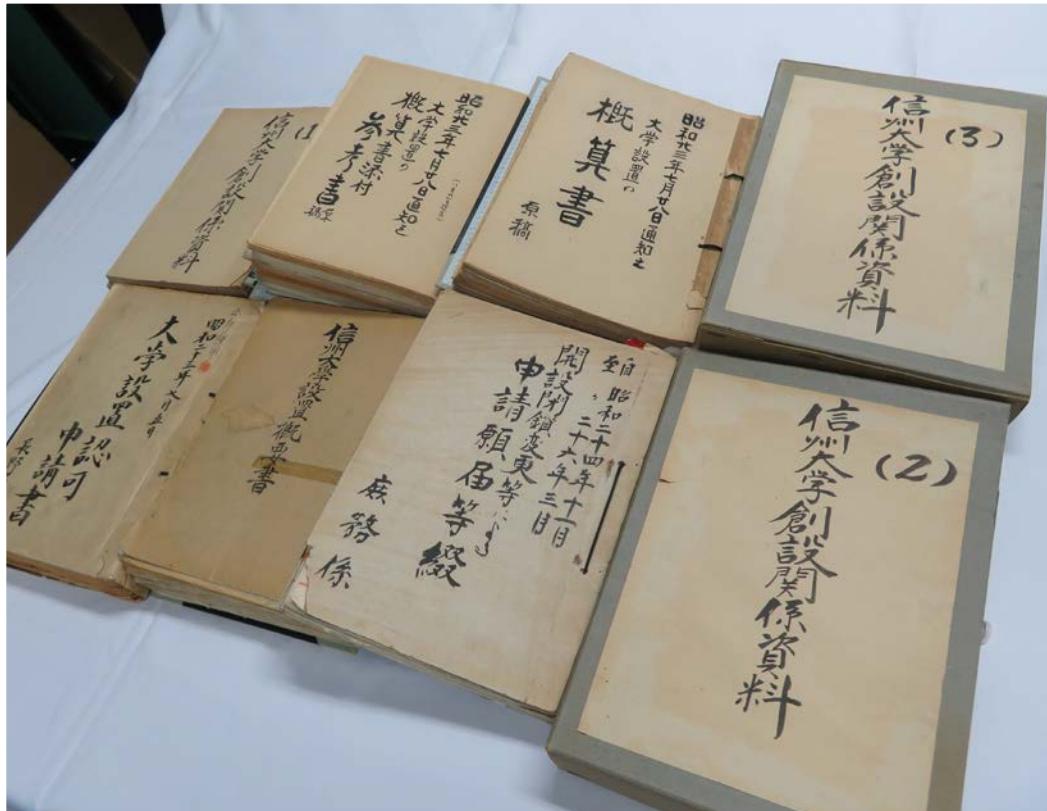
- 一、本県に於ける女子高等教育に関する現状並に今後の推移について（女専校長）笠原教育部長意見を述べ
- 一、実業教育学部の別個成立に関する件
- 一、纖維学部の件に関し懇談す
- 一、総合大学、連合大学の組織上の差異を考案す
- 一、長野県の大学教育組織について中村副知事意見の説明ありたり。
- 一、統いて笠原教育部長この件に関する件について審議する委員会を設置すること。
- 一、信州大学設置仮事務局を松本医科大学内に設置すること。
- 一、教員養成学部の構成について調査研究する小委員会を設くること。  
委員の員数を決定す。
- 一、四月八日十時より師範男子部に開会。
- 一、信州大学設置準備委員会開会の日時を四月十四日十時とす。
- 一、次回高専校長会議は、四月十三日午前九時半より女専に於て開会（教務課長帶同のこと）
- 一、中村副知事説明の案に関する研究を行いたり。
- 一、午後二時半中村副理事退出す。
- 一、本日の議事覚書を審議す。

【略称解説】  
高校・松高…松本高等学校  
大学…松本医科大学  
師範…長野県師範学校男子部、女子部  
青師…長野青年師範学校

女専…長野県女子専門学校（現長野県立大学）  
纖維…上田纖維専門学校  
工専…長野工業専門学校  
農専…長野県立農林専門学校

展示資料 No. 8

# 信州大学創設関係資料

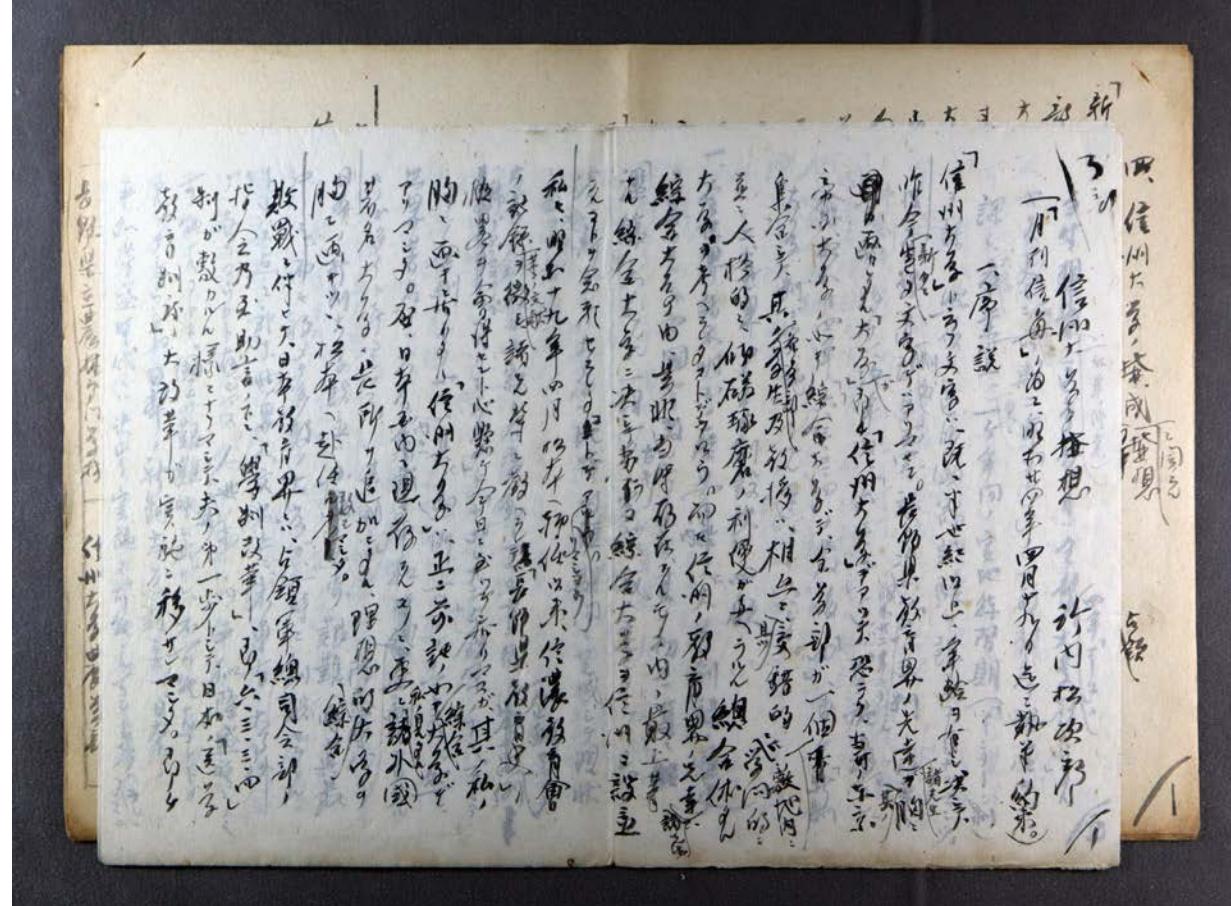


1943～1951（昭和18～26）年  
大学史資料センター蔵

大学設立に関する書類群。11冊が現存している。文部省に提出する設置認可申請書を作成するための準備書類（下書き、書類様式、文部省通知など）がまとめられている。

展示資料 No. 9

# 隨筆 竹内松次郎「信州大学の構想」



1949 (昭和24) 年  
大学史資料センター 藏

信州大学発足を控えた1949(昭和24)年5月、竹内松次郎(松本医科大学学長・信州大学設置委員会事務局長)は、『月刊信毎』5月号に、「信州大学の構想」と題した一文を寄せた。「信州大学」の学部構成や運営方針についての構想を述べている。

# 「信州大学の構想」

(月刊信毎一九四九(昭和二十四)年五月十四日)



## 信州大學の構想

竹内松次郎

### 一、序説

「信州大学」という文字は、既に半世紀以上の年齢を有し、決して、昨今新たに生れた文字ではない。長野縣教育界の先達諸先生がその胸に画かれたり、「信州大学」であつて、恐らく、当時の東京帝國大學の如き総合大学で、全学部が一個の敷地内に集合して、その各学部の学生及び教授は、相互に、かつ交錯的に、學問的に並に人格的に、御謙虚の利便が與えらるゝ総合体たる大学を考へられたることである。しかも信州の教育界の先達諸先生は、総合大学の内、是非、當時存するものゝ内の最上等なる総合大学に決して劣らぬ総合大学を信州に設置することを念願せられたことであろう。

私も、昭和十九年四月松本へ轉任以來、信濃教育会の記錄等の文献を徵し、諸先輩に教えられて「長野縣教育史」の概略を得せらるゝ事は、如何としても、人世の不思議ならずして何ぞやの感無きを得ない。たゞし無理はどうぞも無理で、何處かに無理をあえてしたる跡は残ることを免れえない。日本の新制大学の何れもが「ローマ」の「ムソリーニ」大学の如き容態を有し得ぬことは、本來知れ切つた事であろう。

新制大学としての信州大学は、他府県のそれと同様、在來の所在の國立高等専門学校を併合し、その各を「昇格」せしめて大学部たらしめ、それを統合し、大学本部を新設して、総合大学たらしめんとするものなるが故に、私が「序説」中に述べた如き、「カ所の敷地に全学部を集合せしむる理想的総合大学たり得ざることは理の當然で、信州教育界先達先生の念願を今そのまゝに実現することは不可能なるを免れ得ない。のみならず、

國立大学と申しながら、その設備費時費は當該都道府県の支出に仰がざるを得ない。又「金や物」は何とか致し得ると致しても、一時に完成の城に達せしめ得ざるものはその「教授陣察」である。しかも「大学」として最も大切なは「金」にも非ず、「物」にも非ずして、「人」であることは、改めて申す迄もない。金」と「物」とが無ければ、信州大学設置が不可能なることは、又いうま

p.2

でもないが、今や不可能を可能に移すにあたり、

人事の充実」を比較的容易に可能ならしめるよう企劃することとなつた。

三、新制大學としての信州大學

人世の事業の成否は、すべて心懸け次第で、不思議にも、不可能なるべき事情に於てのみ可能なるべしとも考えられる。

「満洲」そのもので、一朝一夕に完成の城に達し

たものは甚だ多く、歐米の新らしき大学は、比較的短期間に完成して現状に至つてゐる。

大学の創設が國家に大変動のあつた直後に企劃

の指令ないし助言の下に「学制改革」即ち「六・三・四」制が敷かるゝ様になり、その第一歩と

して、日本の「医学教育制度」の大改革が実施されられた。即ち當時、医学教育は全部四年「コ

ス」の「大学教育」であるべく、それに加えて、

期「二年コース」の一般教養課程を課し、大学卒業(二年の修業)の上、更に一カ年間の実地練習

が実施せらるゝ運びとなつた。

二、全世界「大學創設史」の回顧

見るに、各國有數の古き大学は、その初めは眞に

試験を課すことになつた。

医学教育制度改革の実施に次いで、昭和廿二年から「六・三・三」制が実施せられ、次年度に定められた例はまれではない(ベルリン大学が「ナ

ポレオン」占領軍の下に「フィヒテ」によりて企劃せられた如きはその通例の一つである。然し

世界の名なる大学の内にはその國家の平和隆盛時代に企劃せられたものが多いたと考えられる。

日本の新制大学設置は國家の國歩艱難の眞中

に、しかも機めて多數の大学が、時に創設せらるゝ点に於て、世界人文史上に未所有の大事件で

はなからうか。人世諸事の内、平和隆盛時に可能なることゝ、國歩艱難時に非ざれば不可能な

ことゝがある。しかも縣民各の精力が「和」を以て集注するに非ざれば、この大事業は到底実現不可能に終るであろう。即ち和を以て貴しと爲すゆえんである。

四、信州大學の構成に關する構想

「新制大學」の構成については、日本政府文部省

と上級軍縮司令部との商談にて、一定の規格を定め、大体、各縣「一」新制大学を保有する主義と

き信州大学は次表の如き構成を持つ豫定である。

(信州大学本部は松本市に新設)

新制大學としての信州大學は、信州大學の所長

として、一つは「設置費用を節約し」、一つは「教授

權想を以て、上記の主義を實施することになつた。

即ち旧制の高等學校はこれを文科・理科・文

理科又は人文科等の大學部たらしめ、各種の旧

制専門學校はその當該學科を信州大學農業部として加入せしむる。文部省の指図によつたものである。かくの如き構成に關する構想は、あら

く、文部省案によるところ、これが立案相談の

ため、各府縣に各關係學校長・各縣知事・

關係市長・當該市議會長・府縣文教委員等を以

て、「新制大學設置準備委員會」を組織し、又新

制大學の「教授人事」の立案に關しては、關係學部長を以て「新制大學人事委員會」を組織し、こ

の外に「信州大學設置開成同業會」をも組織し、夫々相談、立案し、「信州大學設置要項」並に信

州大學の「教授人事」の委員會を設立して、

「信州大學設置申請書」として文部省へ提出

した。

文部省では、提出せられた「申請書」を文部省へ提出

p.1



たけのうち まつじろう  
**竹内 松次郎** 1884–1977  
(明治17–昭和52)

- ◆ 松本医学専門学校初代校長（1944.4－49.9）
  - ◆ 松本医科大学大学長（1948.2－49.9）
  - ◆ 福井大学学長（1949.9－54.1）

信州大学創立責任者として、国、県、市町村、前身校などとの調整を精力的に行い、総合大学である「信州大学」の設置を主導した。

事会法案と申しかなり論議せらるつゝあるし、何れ充分に論議せらるつて決定せらるべき問題であるか

ら、私個人の意見はとにかくして、こゝにはこゝで関する言及を省略する。

信州大学の設立の大切な所として「大学圖書館」があるが、これは良質的個敷地内に全部を保有する総合大学の大學圖書館の様に考

えることは出来ない。やむをえず、各学部の専門

学科関係なし一般教養関係の図書は、その可及

的に多くかつ良質なるものを各専攻該当学部圖書館に

保有する必要がある。即ち総合的大圖書館はも

とより希望するが、施設費の關係上、到底これを

望むことは無理であろう。やむをえず、そのかわりに、「信州大学本部圖書館」に全学部図書の「目録」を備え置くことし、これによりて教授

並に学生あるいは研究者が必要とする図籍の存在

個所を知る場合、その必要部分を「写真館の如き借

用」により「コピー」をとる方法を探るか、又は

その図書の存在する学部圖書館へ「読みに行く」

ことによる。

又総合大学として必要なる図書を一時に整備す

ることは中々実現しないゆえ、さしあたり、縣内各

学校

「学校」

所有する専門圖書並に一般教養関係の全部に亘る

「元の図書目録」を作製し、その一本ずつを信

州大学本部圖書館に設置することにしたいと、

既に信州大学実施準備委員会に図書目録作製委員

会を開き二ヵ月も前からその作業を開始してい

## 六、信州大學附屬機關の構想

「信州大學」は新制國立大學として、その創足當

座は、最限度の「規準」にまで到達することに

に、全力を傾注する必要に迫られているゆえ、大

学設置規準以外の「附屬機關」については、その

充実を将来にまたなければならないが、この点に

關する構想も、信州大學創設関係者一同が氣にかけない誤ではない。

信州大學がわが國既存の國立なし公私公立大學

の何れにも劣ることなき様に充分に整備擴充せらるべきことにして、信州教育界先達諸先生の

意圖を心に帶し、信州大學創設関係者一同が、時には過大なる構想までも懸き、各学部それぞの

充実は無論、信州大學附屬機關として、海外諸文

明國の優秀な大學の所有する諸附屬機關等までも参考に致して、信州大學を整備充実することの希望構想を懸き、信州大學実施準備委員会並に信州

大學設置期成同盟会の諸諸名位と相談し、將來に

であろうが、どうか縣民各位の献身的で強力な

住宅を望むわけではない。

住宅の現在、住宅の最小限度の準備がなくては

ならない。

信州大學の「設備」並にその「教授人事」を

一舉に希望通りの完成の域に達来することは不可

能である。

信州大學の「実施」並にその「教授人事」を

一舉に希望通りの完成の域に達來することは不可

能である。

信州大學は、実現致し得ることを、縣民各

と共に企圖してやまない次第である。

「信農毎日新聞社」より、四十八時間の余裕をも

て、私に譲せられたる題目のは以上の外に、まだ多くの八日朝刊と十九日の早朝とて、自あつ

書時間」として持て得る各三時間余、計六時間余を以て、この譲せられたる仕事に向ける時間がなかつた。

が、四月十八日朝刊と十九日の早朝とて、以上を書き終つた。

四月十九日

（信州大學總長 藤博）

臣の下に設けられた「大学設置委員会」の審議に附した。大学設置委員会は「申請書」の審議と実地観察をとなし、(特に教授人事については、各科系の専門委員会にて審査し)、その結果を文部大臣に答申した。

「信州大学設置申請書」には、「農学部に関する事項其他」として、

一、長野県立農林専門学校を信州大学農学部とする計画と、

一、「上田鐵維専門学校は單独に鐵維大学昇格案を提出しており、信州大学設置認可同盟会はそれを認めたがも、し上田鐵維専門学校が單科昇格不可能の場合には信州大学設置認可同盟会は上田鐵維専門学校を信州大学の一学部として令めることを希望している」(信州大学設置認可同盟会の決議に基き)との二カ條の記載を附して置いた。

大学設置委員会の審議の結果、信州大学は、上田鐵維専門学校を信州大学鐵維学部の前部を「保留」することとし、他は、申請書通りの構成を以て、信州大学を設置することを「可」とし、「教授人事については各学校現在教授の履歴・学歴・研究業績等の審査資料を精細に審査し、新制大学の教授ないし助教授としての可否判定を附した。

各学校を信州大学当該学部たらしめることに、その在來の施設並に各学部の教授人事に、在來のまゝにしてよかるべき苦難、設備の充実には全力を盡すこととし、これに要する臨時費は「長野縣

## 第3章 信州大学誕生

---

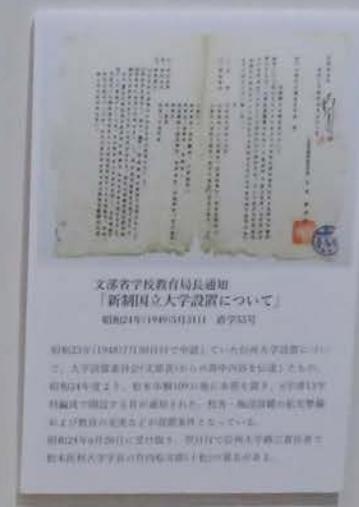
1948(昭和23)年7月、信州大学の設置が申請され、文部省の大学設置委員会の審査を通過、1949(昭和24)年5月31日、国立学校設置法の公布により新制大学“信州大学”が発足した。

### 信州大学誕生

昭和23年(1948)7月、信州大学の設置が申請され、文部省が大学設置委員会の審査を通過。昭和24年(1949)5月31日、国立学校設置法により新制大学「信州大学」が誕生した。



大学設置認可申請書記載様式



文部省学校教育局長通知  
「新制国立大学設置について」  
昭和24年(1949)5月31日 文部省

昭和23年(1948)7月30日付で申請してられた信州大学設置について、大学設置審査会(文部省)から外務省の内務大臣通知したもの。昭和24年5月31日、文部省の新制国立大学設置に承認を受け、大学設置認可申請式で申請されたものと認定された。桂井・高田の2人の新制大学設置の実現者と記載されている。昭和24年6月20日に受け取り、翌日付で信州大学第二回登記者である本校新大学子会員の有内松次郎(十松)の署名がある。

## 展示資料 (複寫)

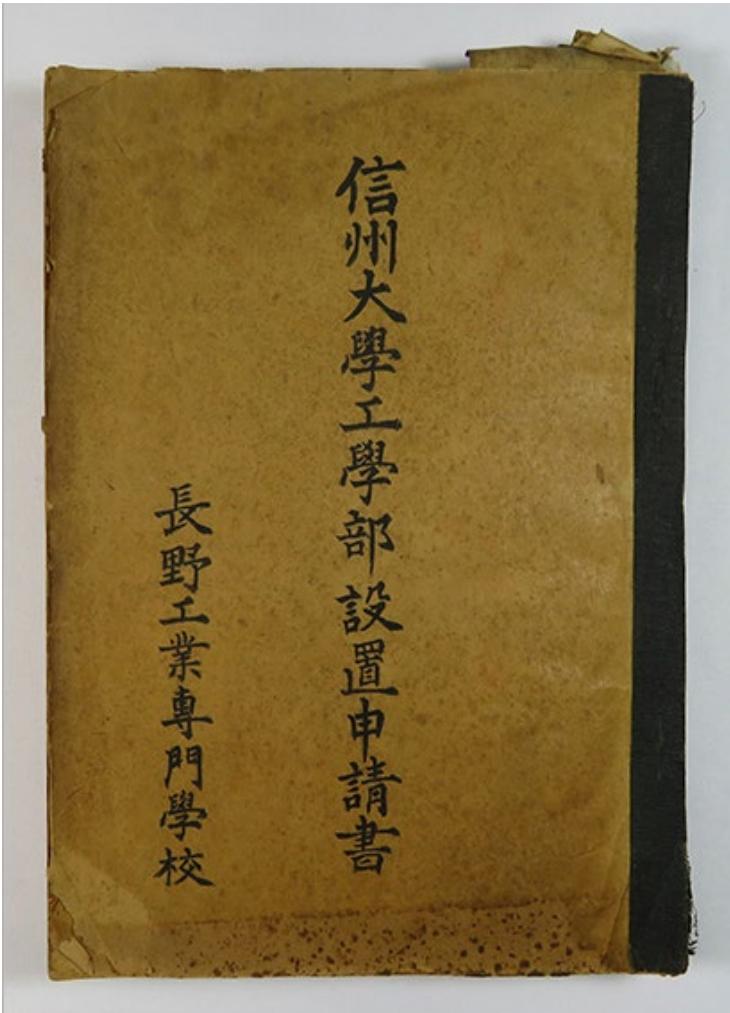
# 大學設置認可申請書樣式

1948 (昭和23) 年  
大学史資料センター 藏

1948(昭和23)年、文部省は各都道府県にあてて、新制大学の設置認可の申請書の書式を示した。その内容は「一 大学設置要綱」にはじまり、「十四将来計画」に及ぶ詳細な内容を求めるものであった。信州大学の場合、申請書は各学部の母胎となる前身校単位で作成され、まとめて提出された。

展示資料 No. 10

# 信州大学工学部設置申請書

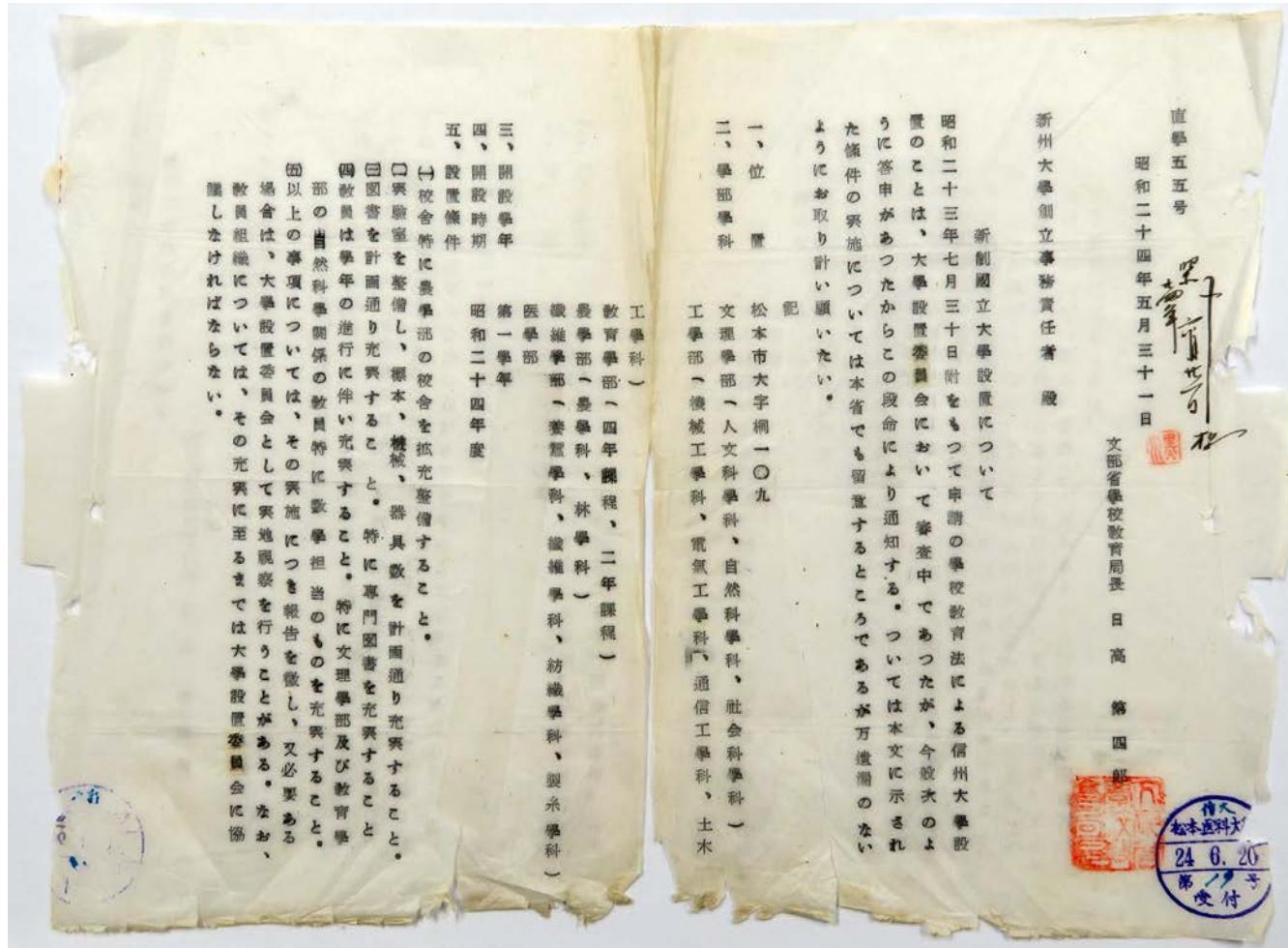


1948 (昭和23)年 7月  
工学部 藏

1948 (昭和23)年 7月、信州大学設置許可申請書が文部省に提出された。工学部の申請書のみが現存している。

展示資料 No. 11

# 文部省学校教育局長開學認可通知



1949 (昭和24)年 5月 31日  
大学史資料センター 蔵

信州大学設置申請について、大学設置委員会による認可の答申内容を通知したもの。松本市に本部を置くことや、6学部13学科となることが明記されている。通知の宛先「新州大学」の「新」は誤字。

第3章 信州大学誕生

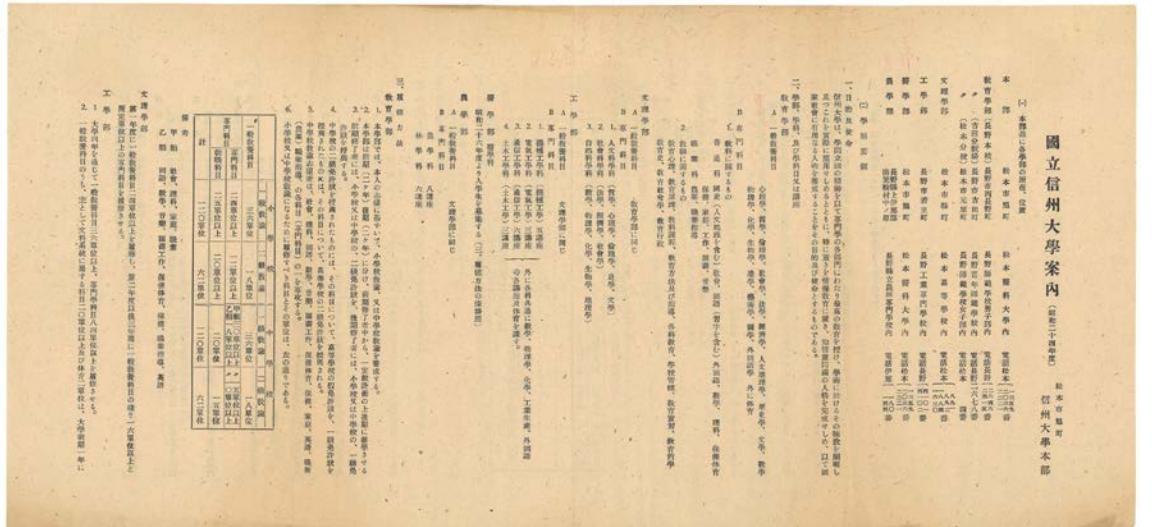
---

信大生誕生





展示資料 No. 12

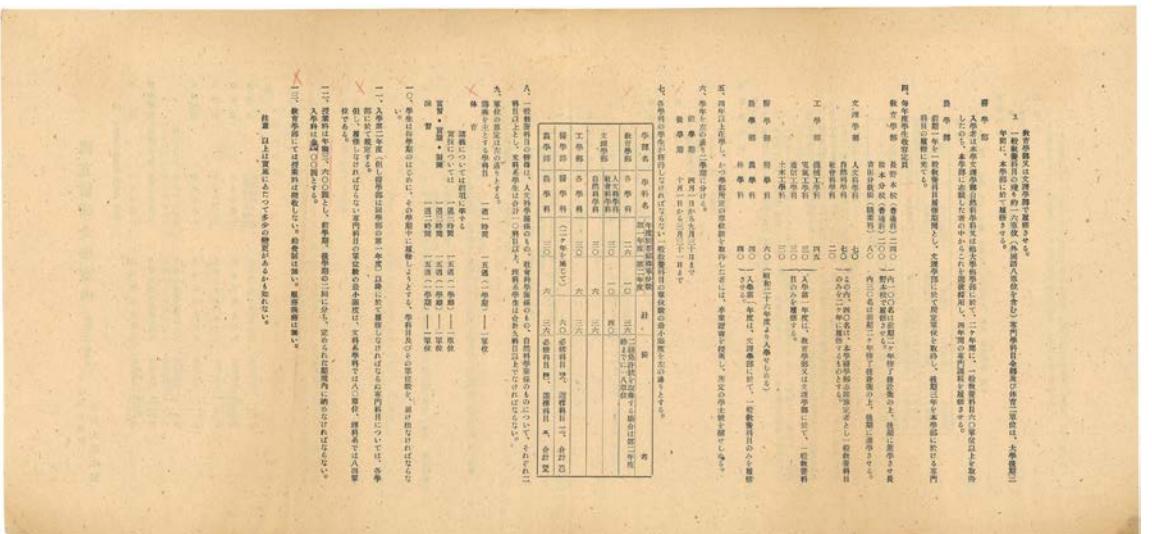


オモテ

# 国立信州大学案内 (昭和二十四年度)

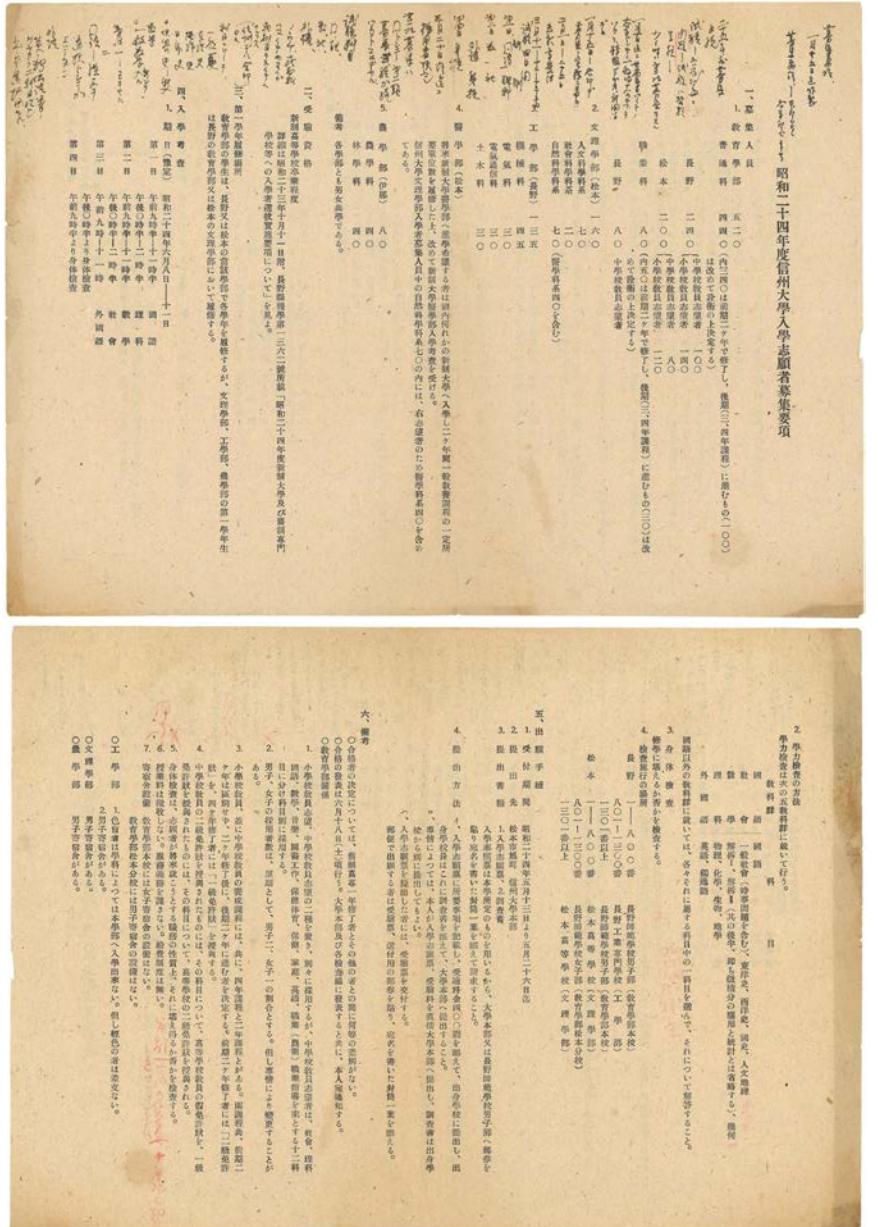
1948 (昭和23) 年度  
教育学部 藏

信州大学の初めての大学案内。受験生向けに、大学の概要を記している。



裏

## 展示資料 No. 13

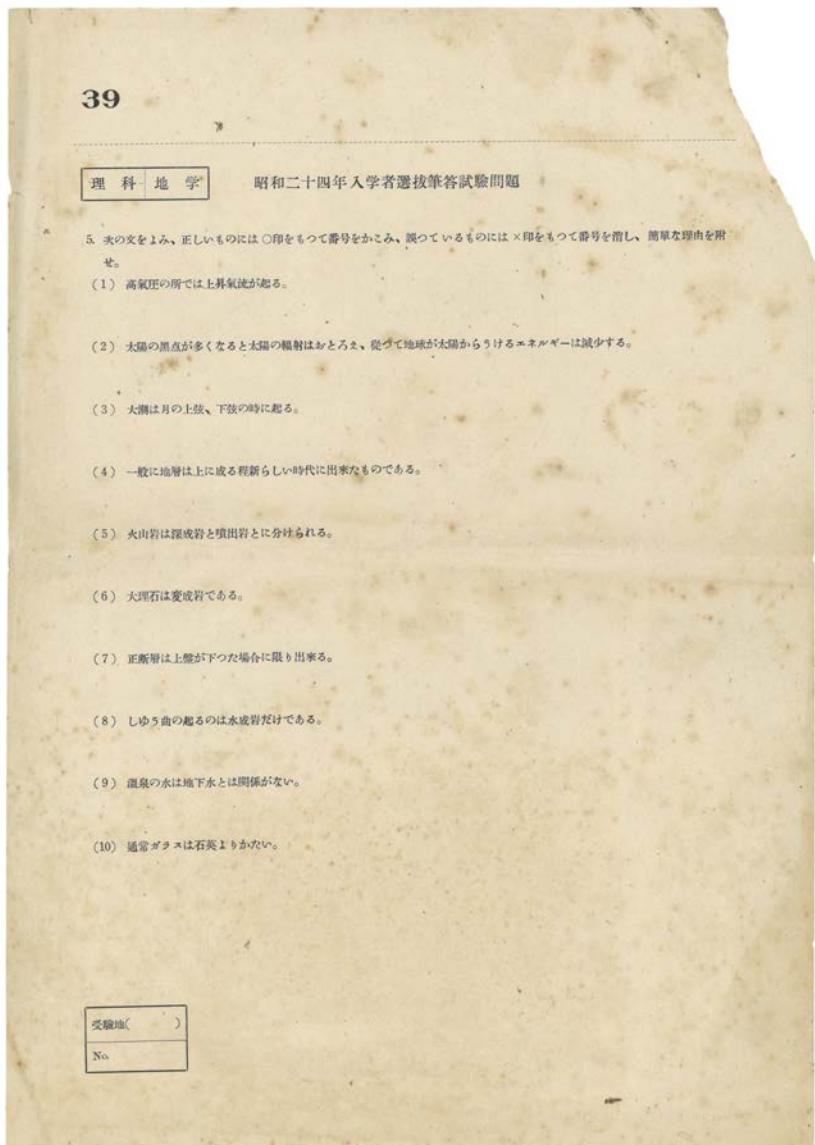


# 昭和二十四年度 信州大学入学志願者募集要項

1948 (昭和23) 年度  
教育学部 藏

## 信州大学第1回入学試験に関する募集要項。

## 展示資料 No. 14



# 昭和二十四年 入学者選抜筆答試験問題 理科地学

1949 (昭和24) 年 6月  
教育学部 藏

信州大学第1回入学試験のうち理科地学の問題。

展示資料 No. 15

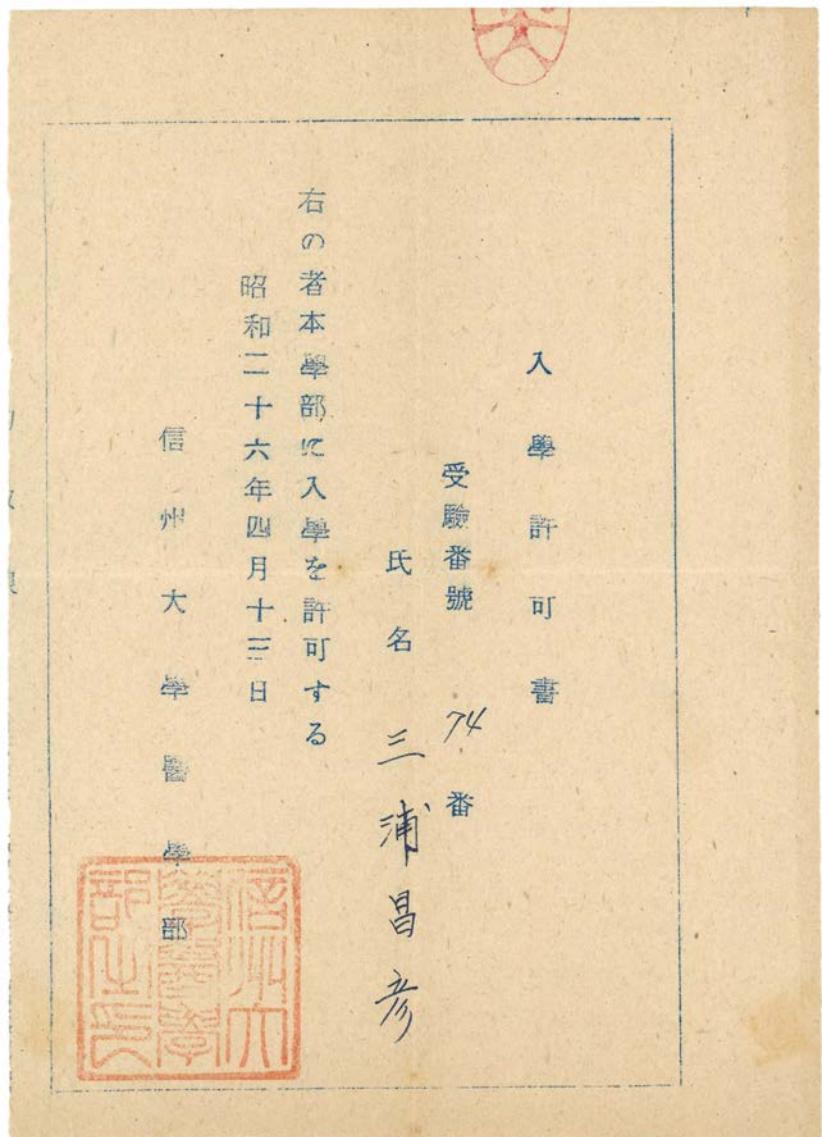


# 昭和26年度 信州大学医学部受験票

1951 (昭和26) 年  
大学史資料センター 藏

医学部第1回入学試験の受験票。  
専門課程は1951 (昭和26) 年度から始ま  
った。

展示資料 No. 16

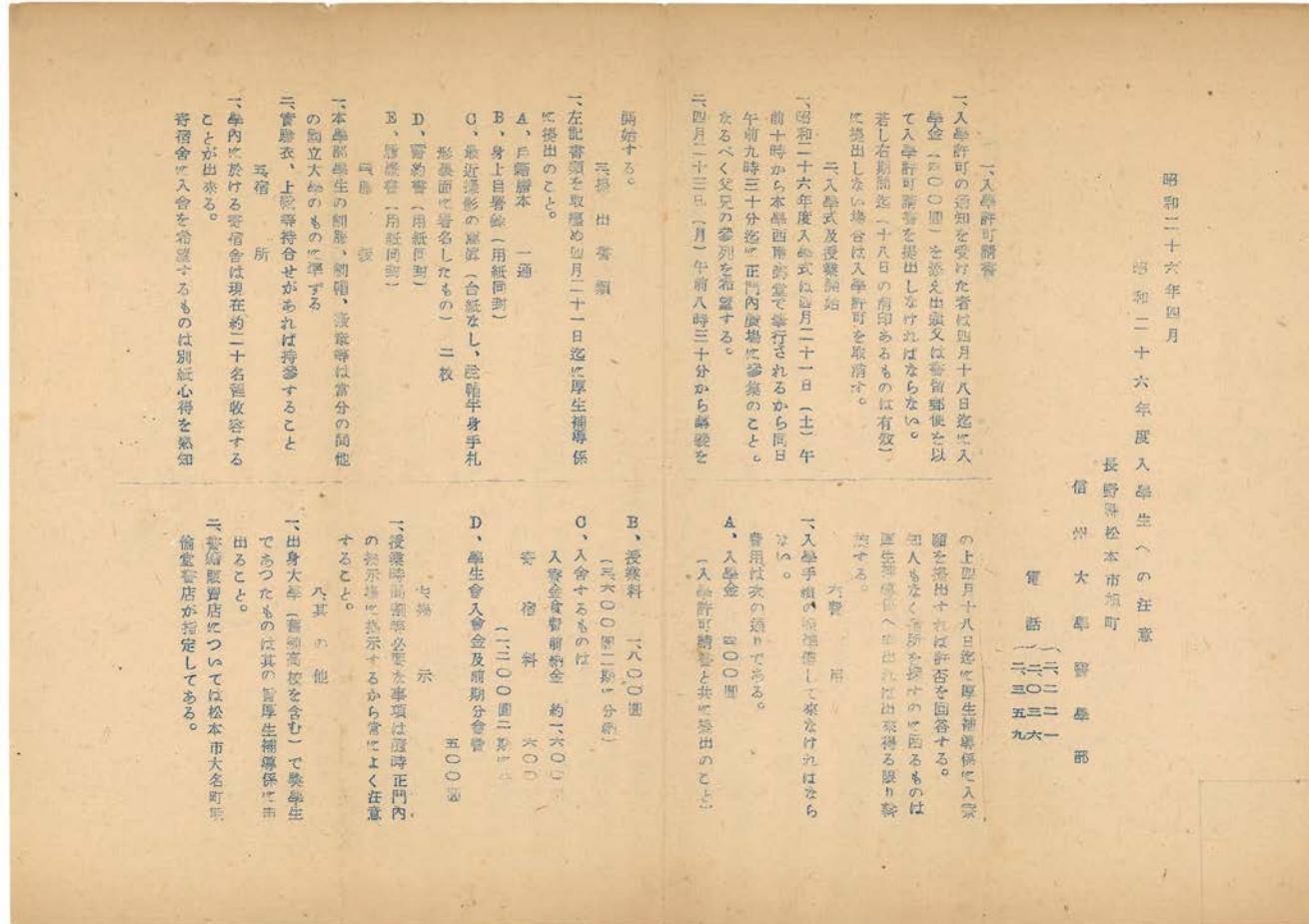


# 昭和二十六年四月十三日 信州大学入学許可書

1951 (昭和26) 年  
大学史資料センター 藏

医学部の1951 (昭和26) 年度入学  
許可書。

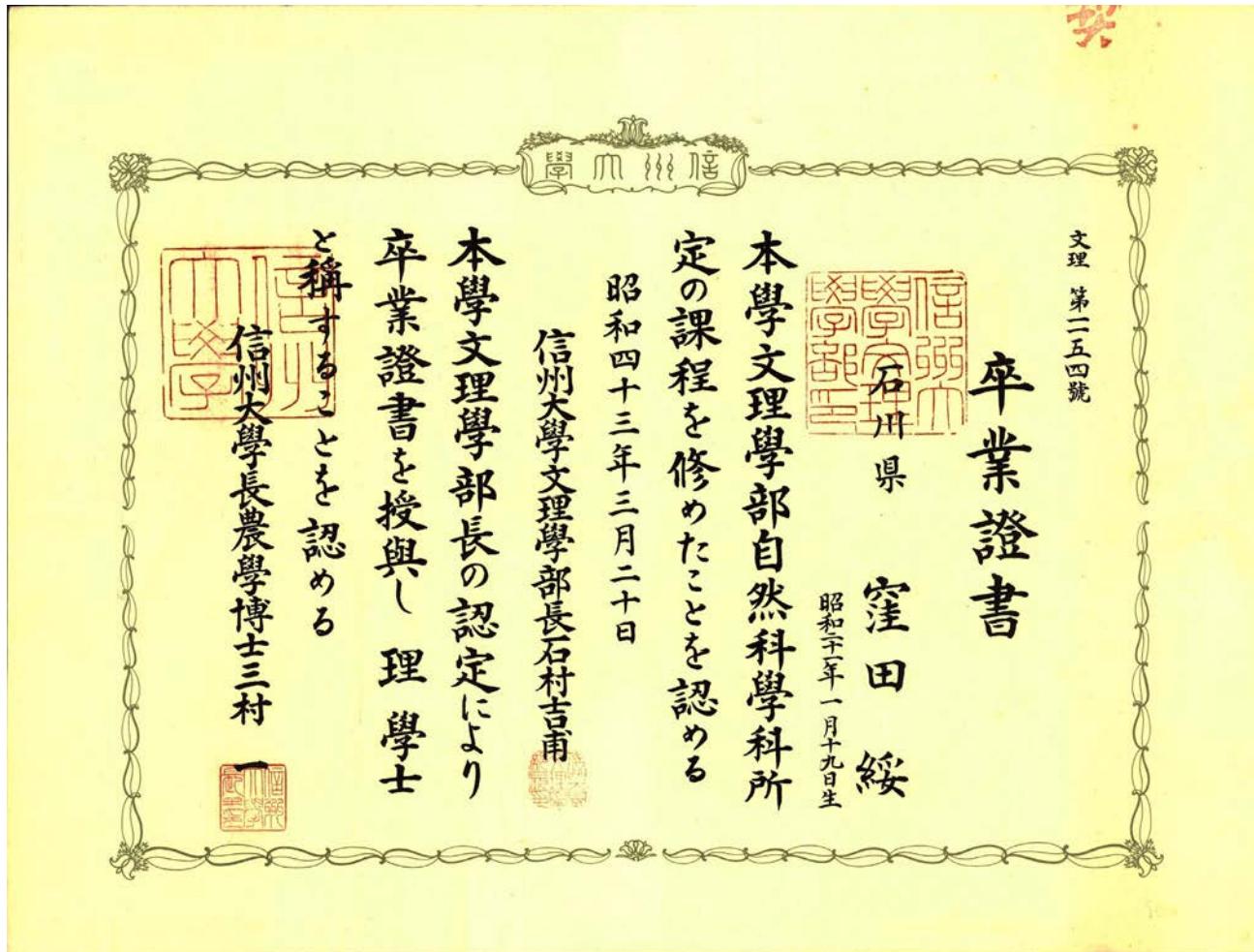
# 昭和二十六年度入学生への注意



1951 (昭和26) 年  
大学史資料センター 蔵

医学部の1951 (昭和26) 年度入学  
者への注意書き。

# 昭和42年度信州大学文理学部卒業証書



1968 (昭和43) 年 3月 20日  
大学史資料センター 蔵

1967 (昭和42) 年度の文理学  
部自然学科の卒業証書。  
文理学部長による課程修了の  
認定と、大学長による卒業と学  
士号の承認が記される。

展示資料 No. 19



## 信州大学文理学部印

1949 (昭和24) 年頃  
人文学部 藏



信州大学文理学部の印  
正確な作成年は未詳。

第3章 信州大学誕生

---

開学記念式



# 信州大学開學式

1950 (昭和25) 年  
10月 30日 (月)



開學式典  
記念祝賀会  
記念講演会  
15 時 13 分  
13 時 22 分  
11 時 22 分

会場 教育学部松本分校講堂（現附属松本小・中学校の地）  
会場 教育学部松本分校および医学部の建物など三会場  
会場 文理学部講堂（旧制松本高等学校講堂）  
「アメリカを見て」 鳥養利三郎 京都大学長  
「歴史を超えるもの」 務台理作 東京教育大学教授

出典『学窓そして三十年』（引用元信州大学新聞教育学部本校版）

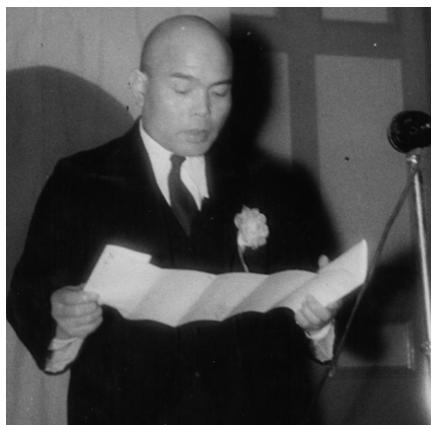
## 信州大学開学式

### 式次第

- 一 開式
- 一 国歌斉唱
- 一 学長式辞
- 一 設立経過報告
- 一 祝辞
- 一 祝電披露
- 一 閉式

### 祝辞

- |         |             |
|---------|-------------|
| 片桐 知従   | 前長野県議会議長    |
| 松島 鑑    | 長野県教育委員長    |
| 松橋 久左衛門 | 長野市長        |
| 筒井 直久   | 松本市長        |
| 小林 陸    | 学生代表（農学部二年） |



祝辞 | 文部大臣（代理）

劍木 亨弘 文部省事務次官



祝辞

林 虎雄 長野県知事



学長式辞

高橋 純一 信州大学長



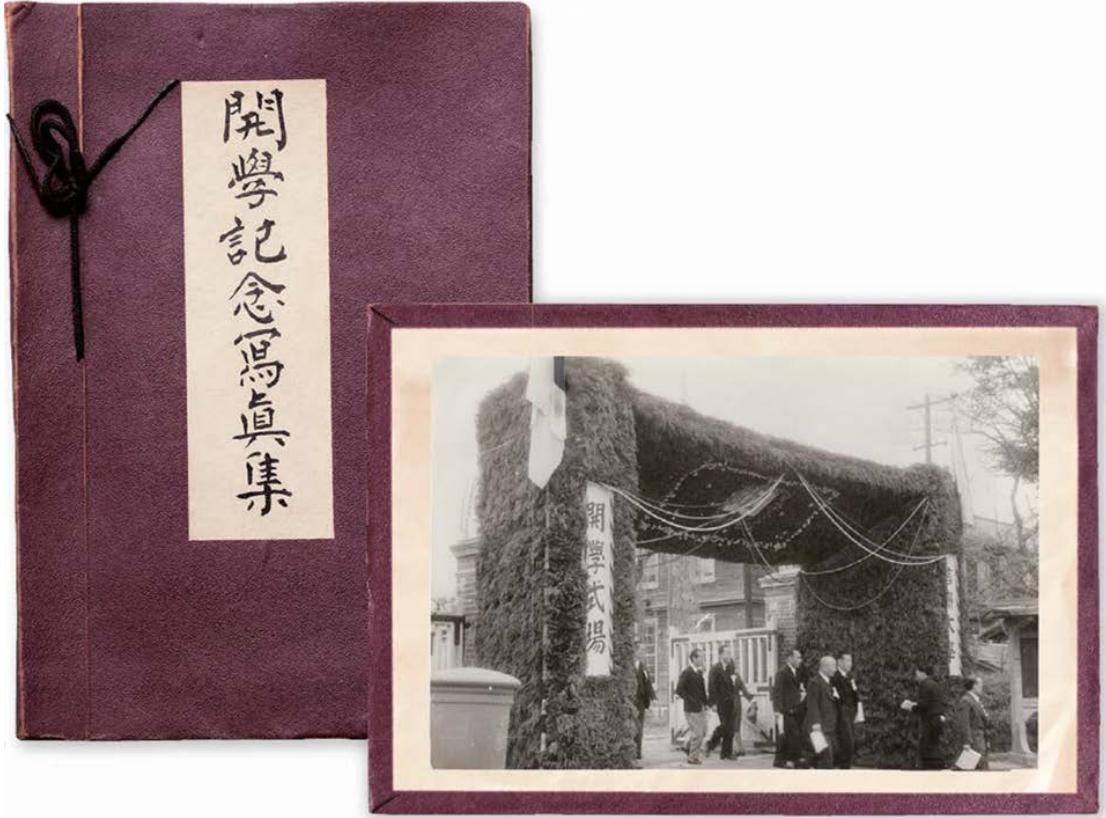
祝辞 国立大学長代表

鳥養 利三郎  
京都大学長

展示資料 No. 20

# 開学記念写真集

1950(昭和25)年10月  
信州大学蔵



記念式典の模様を伝える『開学記念写真集』には  
最初に開学式場に出入りする人々の写真がある。  
アーチに杉の葉を挿して、祝賀の高揚感が伝わる。



談笑する竹内前医学部長ら



祝賀会場入口



講演会場となった文理学部

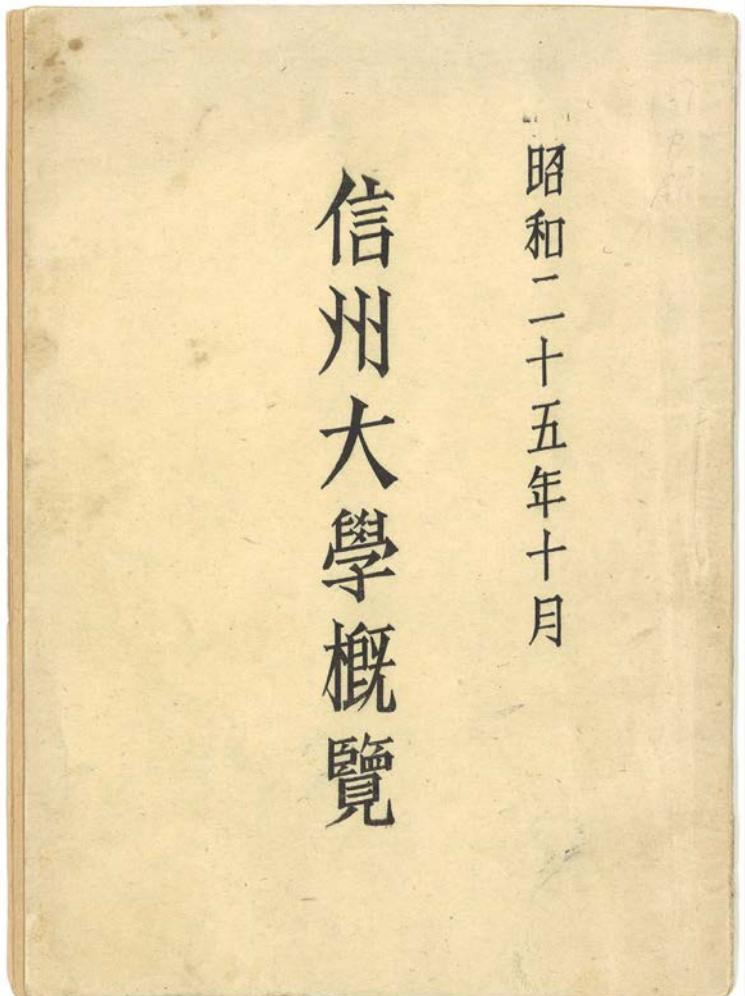


初代学長 高橋純一



展示資料 No. 21

# 信州大学概覧



1950 (昭和25) 年 10月  
信州大学 藏

---

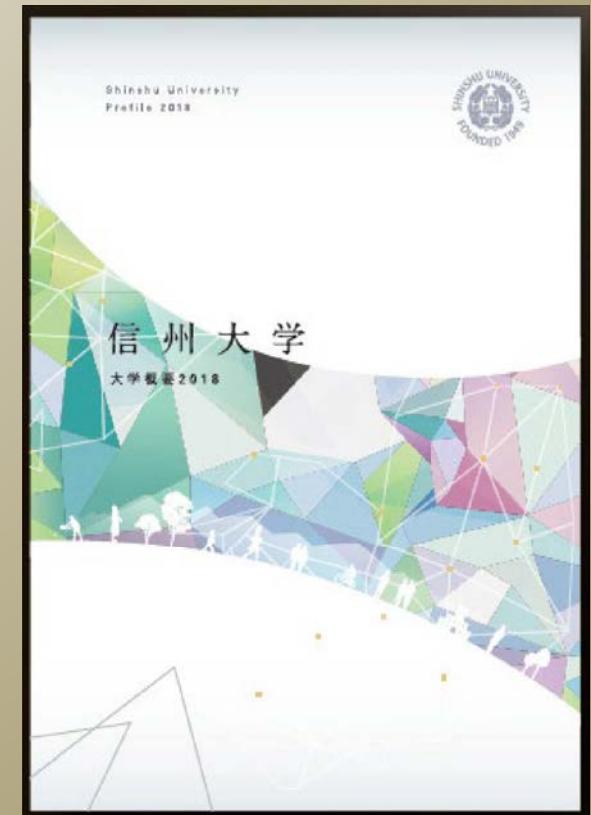
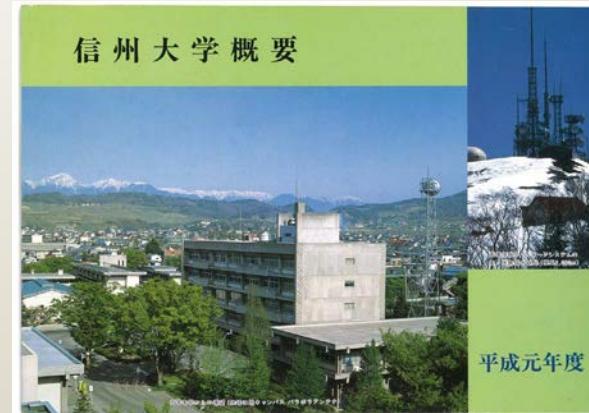
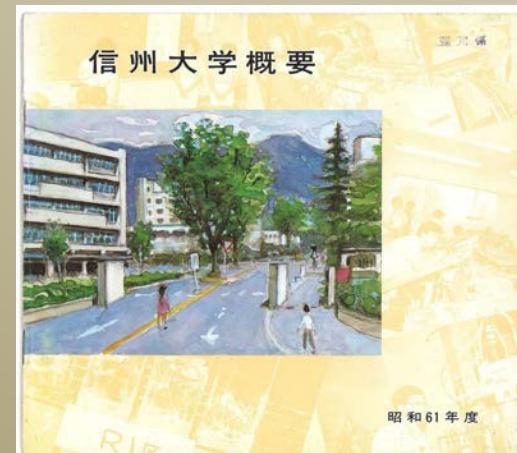
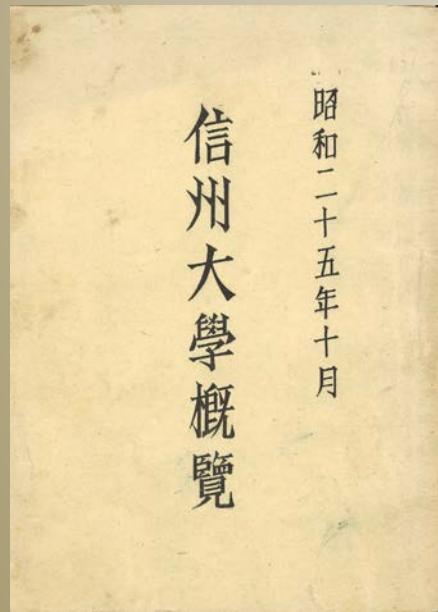
式典参加者に配布された大学の概覧。現在の「大学概要」につながる冊子の第1号。



# エピローグ

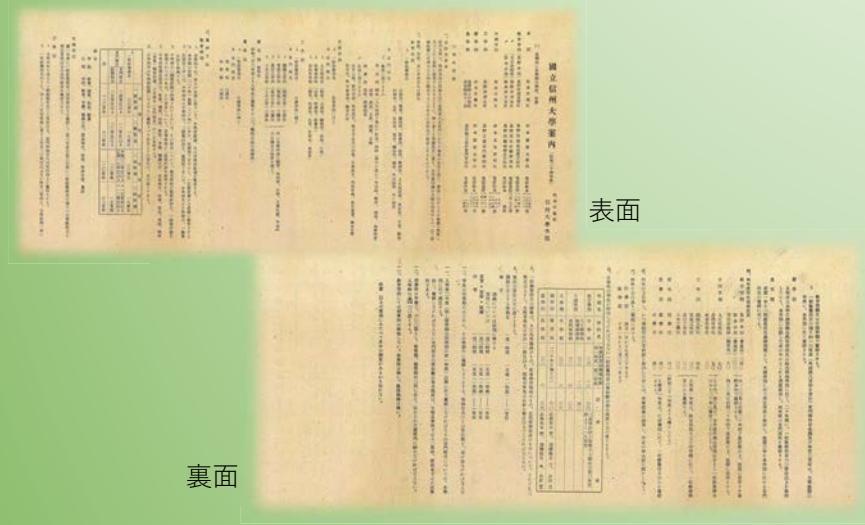
# 信州大学概覧・概要

「信州大学概覧」は「信州大学概要」と名を変えて、現在に至るまで毎年度発行されている。大学の歴史を探る資料ともなっている。

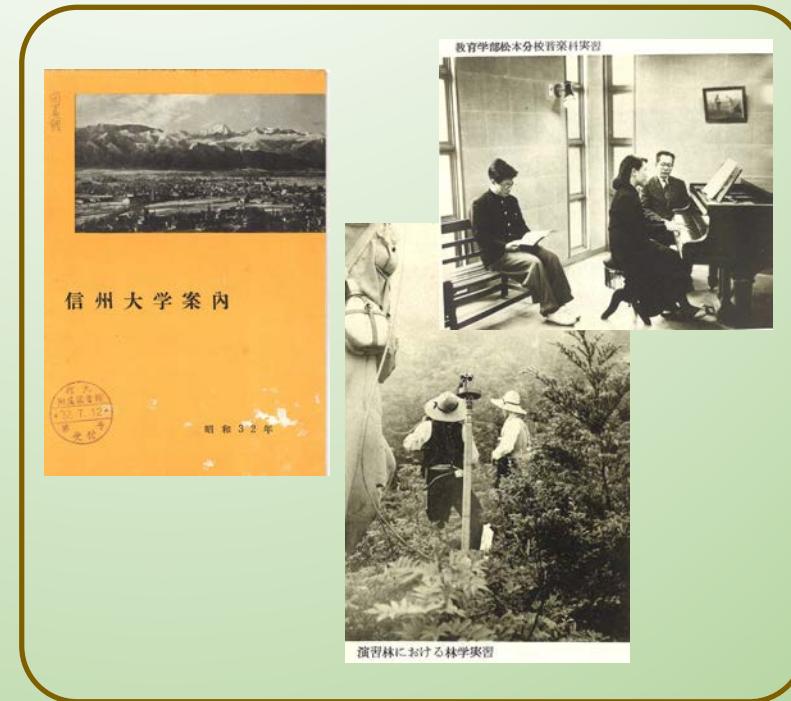


# 信州大学案内

創立以来、信州大学案内は毎年発行されている。信州の美しい自然を表紙のデザインとしているものが多い。



裏面



# 信州大学大学史資料センターについて

大学史資料センターでは、信州大学の歴史を将来に伝えていくために本学に関する資料を収集しています。皆様がお持ちの資料をぜひご提供ください。

●資料提供の手続きにつきましては、[大学史資料センターのホームページ](#)をご覧ください。

ご提供  
いただいた  
資料の一部



大学祭パンフレット



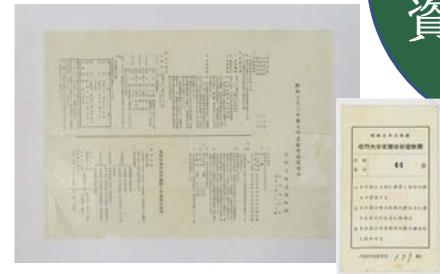
講義ノート



教科書



スナップ写真



募集要項・受験票



バックル・徽章



卒業証書



課題レポート



演劇ポスター



アルバム



学生新聞

2020年4月末時点で3600点を超える資料をご寄贈いただきました。  
ご提供いただきました方々に、厚く御礼を申し上げます。